

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107 - 206	高 等 学 校	国 語	文 学 国 語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※ 教 科 書 名		

1. 編修の基本方針

● 教科書の理念

この教科書は、「教育基本法」「学校教育法」の規定や理念を踏まえ、特に以下の点に留意して編修しました。

- ①豊かな人間性・創造性を身につけさせる。
- ②平和で民主的な国家及び社会の形成者たる人物を育成する。
- ③社会において果たさなければならない使命を自覚させる。
- ④それぞれの個性に応じた進路を決定するのに必要な一般的な教養を高める。
- ⑤社会について、広く深い理解と健全な批判力を養う。
- ⑥社会の発展に寄与する態度を養う。

● 教材の選定と配列

教育基本法第2条の1～5号に示された教育の目標を達成するために必要な教材を精選して掲載しました。教材の選定と配列にあたっては、次のような点に意を用いました。

- ①豊かな感性や情緒をはぐくみ、言語文化に対して主体的に関わりをもつことができるように、近代以降の文学的な作品から広く教材を選定しました。
- ②語彙を増やし、適切にことばや文章を用いて表現することのできる力を養い、文学的な表現を用いて創造力を豊かにすることのできる教材を選定しました。
- ③さまざまな形式の文章や作品に触れることで深い知識と教養を身につけ、生涯にわたって主体的・対話的で深い学びへと導かれる教材を選定しました。
- ④教材がたがいに有機的に繋がり、学習が進むにつれ、国語の資質および能力が的確に身についていくことを意識して教材を配列しました。
- ⑤「思考力・判断力・表現力」の2領域のうち、「書くこと」については2単元、「読むこと」については16単元と単元をバランス良く配置し、また言語活動例として「実践」を適宜配置し、効果的に言語能力を高めることができるよう配列しました。

● 学習を支える工夫

各単元および教材を通じて、高校生の知識・技能を高め、主体的・対話的で深い学びへと導くために、次のような点に意を払いました。

- ①単元の目標：第一部・第二部の冒頭に、それぞれの単元を通じて身につけたい資質・能力を端的に示しました。また、「書くこと」「読むこと」の2領域の、どの領域をのぼす単元であるかを明示しました。
- ②視点：教材の冒頭に、身につけたい資質・能力について、教材の着目すべき点を掲げました。
- ③学習：教材の末尾に「理解」「表現」「重要漢字」を設け、資質・能力を身につけるにあたって、教材のどのような点を活用することができるかを明示しました。
- ④実践：言語能力を高め、主体的・対話的で深い学びへと導く具体的な活動を適宜示しました。
- ⑤「フォーカス」「読解の窓」等のコラムおよび付録を設け、文学や教材本文への理解をより深めることができるようにしました。
- ⑥学習に役立つデジタル・コンテンツを適宜用意いたしました。

2. 対照表

図書の構成・内容と教育基本法第二条第一号から第五号との対応を下記に示します。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第一部		
第1章 ことばから広がる世界 《読む》 ・アイオワの玉葱（長田弘） ・情報の彫刻（原研哉） ・異なり記念日（齋藤陽道）	「アイオワの玉葱」「情報の彫刻」「異なり記念日」の3本の文章を通して、ことばが境界を作り替えていく様子を学び、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うことと、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを期しました。（第1号、第2号）	p12 ～ 33
第2章 物語との出会い 《書く》 ・山月記（中島敦） ・神様（川上弘美） 〈参考〉神様 2011（川上弘美）	「山月記」「神様」および、参考としての「神様 2011」を通して小説の世界の広がりを学び、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うようにしました。（第1号）	p34 ～ 58
実践① 構成と展開を工夫して、 変身物語を書こう《書く》 〈参考〉「私は」——書き出しの一行（角田光代）	自ら「変身物語」を創作することで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うようにしました。また、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことができるようにしました。（第1号・第2号）	p59 ～ 65
第3章 世界観の変革 《読む》 ・実体の美と状況の美（高階秀爾） ・メディアと倫理（和田伸一郎） ・真ん中なる／ならざる風景（李琴峰）	「実体の美と状況の美」「メディアと倫理」「真ん中なる／ならざる風景」と3本の文章を通して、例示の効果をたしかめ、優れた文章のもつ説得力を学び、その中から、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことができるようにしました。また、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるようにしました。（第2号・第5号）	p 66 ～ 85
第4章 想像力の飛躍 《読む》 ・バイリンガリズムの政治学（今福龍太） ・記号論と生のリアリティ（立川健二） ・金縷いの景色（藤原辰史）	「バイリンガリズムの政治学」「記号論と生のリアリティ」「金縷いの景色」を通して、他者の視点に立ち、人や物やことばとの関わりの多様性を学び、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことができるようにしました。また、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるようにしました。（第3号）	p86 ～ 111
第5章 自己と向き合う 《読む》 ・こころ（夏目漱石） フォーカス①夏目漱石と「こころ」 〈参考〉私の個人主義（夏目漱石）	「こころ」を通して、「自己」を追い求める日本近代文学の特色を考えるとともに、読み手によってさまざまな受け止め方があることを学び、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことができるようにしました。（第2号）	p112 ～ 147

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第6章 過去との対話 《読む》 ・死者の声を運ぶ小舟（小川洋子） ・空と風と星と詩（茨木のり子） ・建築論ノート（松山巖）	「死者の声を運ぶ小舟」「空と風と星と詩」「建築論ノート」という過ぎた時間への思いにあふれた文章を味わい、矛盾や葛藤を含めて物事を伝えうる文学の力に触れ、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしました。（第5号）	p148 ～ 177
第7章 生の手ざわり 《読む》 ・プラスチック膜を破って（梨木香歩） ・アイスクリーム熱（川上未映子） ・鞆（安部公房）	「プラスチック膜を破って」「アイスクリーム熱」「鞆」という小説家のエッセイや小説を読むことで、自分の世界観に形を与えてくれる言葉や表現を学び、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うことができるようにしました。（第1号）	p178 ～ 201
第8章 調べとリズム 《書く》 ・小景異情（室生犀星） ・サーカス（中原中也） ・永訣の朝（宮澤賢治） ・短歌 ・死にたまふ母（斎藤茂吉） ・沈黙の種子（小池昌代）	近現代の詩歌を学ぶことを通して、詩の言葉のリズムがもつ力を感じ、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしました。（第5号）	P202 ～ 220
実践②表現を工夫して大切な場所のエッセイを書こう 《書く》	エッセイを執筆する実践を通じて、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことができるようにしました。（第2号）	p 221
第9章 思考の道筋をたどる 《読む》 ・化物の進化（寺田寅彦） ・文学の仕事（加藤周一）	「化物の進化」、「文学の仕事」という文章を通して、既成概念を疑い、新たな思考の枠組みを創り出す着眼点を学び、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるようにしました。（第3号）	p222 ～ 239
第10章 日常の裂け目 《読む》 ・捨てない女（多和田葉子） ・魂込め（目取真俊）	「捨てない女」「魂込め」という、現実と非現実が重なり合う虚構の世界を描いた小説を通して、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うとともに、小説が伝える歴史に学び、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるようにしました。（第4号、第5号）	p240 ～ 269
<h2>第二部</h2>		
第1章 物語が生まれる場所 《読む》 ・言葉のあいだの言葉（柴崎友香） ・小説とは何か（三島由紀夫） 〈参考〉遠野物語（柳田國男） ・陰翳礼讃（谷崎潤一郎）	近代と現代を代表する作家の小説論・日本文化論をよみ味わい、独自ものの見方・考え方を理解するとともに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしました。（第5号）	p274 ～ 295

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第2章 交差するドラマ 《読む》 ・舞姫（森鷗外） フォーカス② 近代小説の誕生 ・女の子たち風船爆弾をつくる（小林エリカ）	小説を通して、「個」と「社会」との対立、異なる立場や価値観がせめぎあう様相に立ち会い、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことができるようにしました。（第2号）	p296 ～ 336
実践③「編集」という表現方法を楽しもう 《読む》	自らの個性を発揮してアンソロジーをつくる実践を通し、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことができるようにしました。（第2号）	p337
第3章 新たな視座を得る 《読む》 ・確かにそういう時間があったということ（堀江 栞） ・日本文化私観（坂口安吾） ・隠れん坊の精神史（藤田省三）	「確かにそういう時代があったということ」「日本文化私観」「隠れん坊の精神史」という現代の随想の豊かな表現力を学ぶことで、文学的文章の表現手法について幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことができるようにしました。（第1号）	p 338 ～ 357
第4章 文体がひらく世界 《読む》 ・水仙（太宰 治） ・王国（津村記久子）	「水仙」「王国」という独自の文体をもつ小説を通して、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことができるようにしました。（第2号）	p358 ～ 387
第5章 表現を突き詰める 《読む》 ・無常ということ（小林秀雄） ・骨とまぼろし（真木悠介） ・ある〈共生〉の経験から（石原吉郎）	「無常ということ」「骨とまぼろし」「ある〈共生〉の経験から」という人類の歴史から唯一無二の経験を読み解いて書かれた文章を通して、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるようにしました。また、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるようにしました。（第3号、第5号）	p388 ～ 411
第6章 詩歌という隣人 《読む》 ・無題（吉原幸子） ・旅情（石垣りん） ・N 森林公園の冬（北村太郎） ・俳句 ・鈴虫の間、ぼくの六畳間（アーサー・ビナード）	現代詩や俳句のもつ一瞬をつなぎとめる文学の力を学び、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことができるようにしました。（第1号）	p 412 ～ 429
第7章 歴史の記憶 《読む》 ・藤野先生（魯迅） ・砲撃のあとで（三木卓）	「藤野先生」「砲撃のあとで」という、重い主題を抱えた小説を通して、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるようにしました。また、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるようにしました。（第3号、第5号）	p430 ～ 451

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第8章 未来を問う 《読む》 ・寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか（渡辺一夫） ・チャンピオンの定義（大江健三郎）	「寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」「チャンピオンの定義」という粘り強く難題に取り込もうとする文学の力に学び、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるようにしました。また、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるようにしました。（第3号・第5号）	p 452 ～ 470
実践④ 創作の背景について調べよう 《書く》	文学作品の作者や作品について調べることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことができるようにしました。（第1号）	p 471

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・「言語文化」の学習内容の成果を発展拡充させて、「文学国語」でも豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うために、教材および「実践」などの言語活動におけるテーマや内容に意を用いました。（学校教育法第51条第一号）
- ・「実践」における言語活動および「読書案内」で紹介した書籍、「フォーカス」などのコラムを通して、社会において一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させることに意を払いました。（学校教育法第51条第二号）
- ・個性豊かな文学的文章に数多く触れ、また自身も創作活動に取り組むことで、個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うことができるように意を払いました。（学校教育法第51条第三号）
- ・教材にはユニバーサル・フォントを用いて、多くの人の読みやすい紙面づくりに配慮しました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時間数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107 - 206	高 等 学 校	国 語	文 学 国 語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※ 教 科 書 名		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

学習指導要領の総則および「文学国語」に掲げられた目標を効果的に達成するために、特に以下の点に留意して編集しました。

①育成したい資質・能力を明確化した単元構成 単元は、生徒に身につけさせたい「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」をもとに構成しました。

「思考力・判断力・表現力」については、「書くこと」「読むこと」の、どの領域に関する言語能力を身につけたいかを分かりやすく示しました。

また単元ごとに「単元の目標」を示し、生徒が各単元を通じて、どのような資質・能力を身につけることができるのか、見通しを立てたり、学習後の振り返りを行ったりすることができるようにしました。掲載した教材にはそれぞれ冒頭に「視点」を示し、各教材を通じて身につけたい「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」を意識的に学習できるようにしました。

②発達段階に応じた教材を厳選 生徒の心身の発達段階を十分に考慮して、「言語文化」からの移行が円滑にできるよう、親しみやすい教材から、深い味わいを覚える教材まで厳選して掲載しました。また、教材として適度な長さで、なおかつ奥行きのある文章を選びすぎりました。

③「主体的・対話的で深い学び」の実現を促す「実践」 適宜「実践」を示し、単元を通して、「主体的・対話的で深い学び」を行うことができるようにしました。

④学習者の自学自習に便利な工夫 教材の理解を助けるために、脚問を付して、本文を的確に理解できるようにしました。また教材末尾には「理解」と「表現」を設け、教材の内容を正確に捉えることができるようにしました。各見開きに重要漢字・語句、また教材末尾に「重要漢字」を付し、生徒の語彙を増やすことができるように工夫しました。

それぞれの教材について読みを深める際に役立つように「読解の窓」などのコラムを設けました。

⑤読書指導の充実 「学びに向かう力、人間性」を支える工夫として、読書の意義を理解できるように適宜「読書案内」を設け、教材によっては著者の主な著作を紹介しました。

⑥誌面の工夫 全体に見やすいレイアウトとなるよう配慮するとともに、学習の効率化と活性化を図るために多色刷りを用い、必要な図版や地図などを適宜カラーで掲載しました。また、

多くの生徒の読みやすさに配慮して、ユニバーサル・デザイン・フォントを用いました。

⑦デジタル・コンテンツ 学習を深める手立ての一つとして、教材に関するインターネット上の情報を適宜示し、二次元コードを用いて、情報を示したウェブページを掲載しました。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容		該当箇所	配当時間数
単元名	教材名	知識・技能	思考力・判断力・表現力		
第一部					
第1章 ことばから広がる世界 《読む》	・アイオワの玉葱（長田弘） ・情報の彫刻（原研哉） ・異なり記念日（齋藤陽道）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, ウ, エ, カ	p12 ～ 33	6
第2章 物語との出会い 《書く》	・山月記（中島敦） ・神様（川上弘美） 〈参考〉神様 2011（川上弘美）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Aア, イ, ウ, エ	p34 ～ 58	10
実践① 構成と展開を工夫して、変身物語を書こう 《書く》	〈参考〉「私は」——書き出しの一行（角田光代）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Aア, イ, ウ, エ	p59 ～ 65	5
第3章 世界観の変革 《読む》	・実体の美と状況の美（高階秀爾） ・メディアと倫理（和田伸一郎） ・真ん中なる／ならざる風景（李琴峰）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, イ, エ, オ, カ	p 66 ～ 85	6
第4章 想像力の飛躍 《読む》	・バイリンガリズムの政治学（今福龍太） ・記号論と生のリアリティ（立川健二） ・金繕いの景色（藤原辰史）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, イ, エ, カ	p86 ～ 111	6
第5章 自己と向き合う 《読む》	・こころ（夏目漱石） 〈参考〉私の個人主義（夏目漱石） フォーカス① 夏目漱石と「こころ」	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, イ, エ, オ, カ, キ	p112 ～ 147	8
第6章 過去との対話 《読む》	・死者の声を運ぶ小舟（小川洋子） ・空と風と星と詩（茨木のり子） ・建築論ノート（松山巖）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, イ, エ, オ, カ	p148 ～ 177	6
第7章 生の手ざわり 《読む》	・プラスチック膜を破って（梨木香歩） ・アイスクリーム熱（川上未映子） ・鞆（安部公房）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ	p178 ～ 201	6

図書の構成・内容		学習指導要領の内容		該当箇所	配当時間数
単元名	教材名	知識・技能	思考力・判断力・表現力		
第8章 調べとリズム 《書く》	・小景異情（室生犀星） ・サーカス（中原中也） ・永訣の朝（宮澤賢治） ・短歌 ・死にたまふ母（斎藤茂吉） ・沈黙の種子（小池昌代）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Aア, イ, ウ, エ	P202 ～ 220	5
実践②表現を工夫して大切な場所のエッセイを書こう 《書く》		Aア, イ, ウ, エ	Aア, イ, ウ, エ	p 221	5
第9章 思考の道筋をたどる 《読む》	・化物の進化（寺田寅彦） ・文学の仕事（加藤周一）	((1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, エ, オ, カ	p222 ～ 239	6
第10章 日常の裂け目 《読む》	・捨てない女（多和田葉子） ・魂込め（目取真俊）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ	p240 ～ 269	8
第二部					
第1章 物語が生まれる場所 《読む》	・言葉のあいだの言葉（柴崎友香） ・小説とは何か（三島由紀夫） 〈参考〉遠野物語（柳田國男） ・陰翳礼讃（谷崎潤一郎）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ	p274 ～ 295	8
第2章 交差するドラマ 《読む》	・舞姫（森鷗外） フォーカス② 近代小説の誕生 ・女の子たち風船爆弾をつくる（小林エリカ）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ	p296 ～ 336	8
実践③「編集」という表現方法を楽しもう 《読む》		(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, エ, オ, カ	p337	2
第3章 新たな視座を得る 《読む》	・確かにそういう時間があったということ（堀江 栞） ・日本文化私観（坂口安吾） ・隠れん坊の精神史（藤田省三）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ	p 338 ～ 357	5
第4章 文体がひらく世界 《読む》	・水仙（太宰 治） ・王国（津村記久子）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ	p358 ～ 387	10

図書の構成・内容		学習指導要領の内容		該当箇所	配当時間数
単元名	教材名	知識・技能	思考力・判断力・表現力		
第5章 表現を突き詰める 《読む》	・無常ということ（小林秀雄） ・骨とまぼろし（真木悠介） ・ある〈共生〉の経験から（石原吉郎）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ	p388 ～ 411	8
第6章 詩歌という隣人 《読む》	・無題（吉原幸子） ・旅情（石垣りん） ・N 森林公園の冬（北村太郎） ・俳句 ・鈴虫の間、ぼくの六畳間（アーサー・ビナード）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ	p 412 ～ 429	5
第7章 歴史の記憶 《読む》	・藤野先生（魯迅） ・砲撃のあとで（三木卓）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ	p430 ～ 451	6
第8章 未来を問う 《読む》	・寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか（渡辺一夫） ・チャンピオンの定義（大江健三郎）	(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	Bア, イ, エ, オ, カ, キ	p 452 ～ 470	6
実践④ 創作の背景について調べよう 《書く》		(1) ア, イ, ウ, エ (2) ア, イ	A ア, イ, ウ, エ	p 471	5

合計 140

常用漢字以外の使用漢字一覧(数字は初出ページを示す。)

吞(30) 杖(27) 肩(23) 鼻(23) 董(23) 鞆(23) 匙(22) 娑(21) 袈(21) 哉(20) 竟(17) 畢(17) 些(16) 鱗(15) 葱(12) 弘(12) 智(11) 叡(11) 漱(11) 敦(9)

淮(35) 於(35) 嶺(35) 慘(35) 汝(35) 悖(35) 怏(34) 儻(34) 炯(34) 峭(34) 臥(34) 號(34) 賤(34) 恃(34) 狷(34) 榜(34) 穎(34) 李(34) 隴(34) 聾(32)

倨(42) 睥(41) 嘯(41) 此(41) 輶(41) 已(41) 茅(41) 蓬(41) 仍(41) 陝(41) 嗤(41) 誦(40) 茫(37) 赧(36) 愧(36) 厭(36) 闊(36) 峻(36) 懼(36) 叢(36)

擱(51) 喋(48) 繫(48) 蓄(47) 鳴(47) 譚(46) 踪(46) 咆(45) 哭(44) 慟(44) 哮(43) 巖(43) 怯(43) 恚(42) 慙(42) 悶(42) 碌(42) 伍(42) 琢(42) 磋(42)

吾(72) 凱(71) 掬(71) 媚(70) 雁(69) 烏(69) 曙(68) 蕉(68) 芭(68) 孕(68) 蛙(68) 爾(66) 噓(63) 瞰(61) 俯(61) 曝(57) 苔(55) 塵(55) 芥(54) 頷(53)

浙(102) 釉(102) 函(102) 碗(101) 硯(100) 滲(100) 辰(100) 嘔(97) 畏(97) 靱(94) 綜(91) 轢(88) 乖(87) 儘(83) 贅(83) 辿(83) 腑(81) 閩(80) 捏(80) 夷(73)

狼 (124) 鸞 (123) 讐 (122) 徨 (122) 彷徨 (122) 悄 (121) 淵 (121) 謨 (116) 俸 (116) 崇 (116) 嚼 (116) 咀 (116) 腋 (114) 蘇 (109) 紐 (108) 瑕 (106) 砥 (105) 蠱 (105) 備 (105) 傀 (105) 惹 (103)

纏 (144) 嘴 (144) 耽 (144) 慚 (143) 婢 (143) 摯 (143) 雀 (143) 鶉 (142) 錐 (141) 竦 (141) 覘 (140) 憚 (139) 猾 (134) 狡 (134) 曠 (132) 隈 (131) 椀 (129) 懊 (128) 熾 (126) 套 (125) 梢 (125)

甕 (163) 憐 (159) 冽 (158) 晒 (158) 夭 (157) 尹 (157) 歪 (155) 洩 (153) 脹 (153) 屍 (152) 鱒 (151) 搔 (150) 禱 (148) 蔓 (148) 鼠 (147) 靄 (146) 擡 (146) 毫 (146) 墟 (145) 畸 (145) 罹 (145)

叩 (184) 飴 (181) 嬉 (181) 炫 (179) 褪 (175) 啼 (173) 鼻 (173) 牀 (173) 屢 (172) 圃 (172) 烟 (172) 痰 (172) 煤 (172) 亮 (171) 窪 (170) 巖 (170) 倚 (168) 權 (168) 懣 (166) 忿 (166) 澹 (165)

澤 (205) 訣 (205) 劫 (204) 蠣 (204) 牡 (204) 鰓 (204) 梁 (203) 殷 (203) 抒 (202) 犀 (202) 酬 (194) 醜 (194) 也 (193) 粥 (192) 淹 (191) 繡 (191) 桂 (191) 舐 (190) 淋 (189) 寓 (186) 莓 (185)

苞 (214) 笹 (214) 薊 (214) 梯 (213) 磐 (213) 鳳 (212) 厨 (212) 昏 (212) 鷺 (211) 瀏 (211) 尖 (211) 云 (211) 蔓 (210) 迢 (210) 薩 (208) 菩 (208) 勒 (208) 兜 (208) 零 (207) 崗 (206) 蓴 (205)

膀 (228) 萍 (228) 剃 (228) 豎 (228) 鼬 (227) 恰 (226) 袂 (226) 蔭 (225) 晰 (224) 伽 (224) 稀 (224) 琳 (223) 屏 (223) 秤 (223) 禪 (222) 寅 (222) 翠 (220) 鷺 (218) 蟬 (217) 峙 (216) 昌 (216)

灼 (253) 髭 (253) 兔 (253) 奄 (251) 蠅 (250) 濡 (247) 訶 (246) 埃 (243) 鏞 (243) 泄 (240) 斐 (235) 纂 (233) 柑 (230) 藪 (230) 繙 (230) 僻 (229) 淇 (228) 穿 (228) 藁 (228) 截 (228) 肱 (228)

蹶 (274) 躄 (274) 軋 (274) 詫 (274) 柴 (274) 魯 (273) 仔 (269) 蝶 (268) 銛 (268) 瑚 (268) 珊 (268) 蟹 (267) 疹 (267) 噂 (266) 鍬 (264) 姦 (263) 呆 (263) 牌 (262) 孵 (261) 噌 (256) 嶽 (254)

搏 (290) 螺 (289) 蒔 (289) 蠟 (288) 燭 (280) 讚 (288) 稗 (287) 蒨 (287) 某 (287) 旣 (286) 曳 (286) 姥 (286) 柏 (286) 憑 (285) 崇 (284) 什 (283) 撼 (282) 縞 (281) 槌 (280) 國 (280)

誣 (301) 讒 (301) 蔗 (301) 瑣 (301) 筵 (300) 抄 (300) 睫 (299) 瀝 (298) 糊 (298) 鬢 (298) 翳 (297) 恙 (297) 謚 (295) 櫃 (294) 鉞 (294) 蒲 (294) 醬 (294) 羹 (293) 庵 (292) 沁 (291) 綾 (290)

訛 (305) 氈 (305) 煉 (305) 勲 (305) 慳 (305) 媪 (304) 歔 (304) 歛 (304) 涸 (304) 憫 (303) 垢 (303) 惚 (303) 恍 (303) 袪 (303) 襦 (303) 僑 (303) 艱 (303) 冤 (302) 琲 (302) 珈 (302) 赫 (302)

庇 (313) 軻 (313) 輾 (313) 躡 (313) 踟 (313) 朔 (312) 吻 (312) 逢 (312) 庖 (311) 焚 (311) 垓 (311) 坎 (311) 鍤 (311) 殂 (310) 盞 (309) 臂 (309) 餐 (309) 鬢 (308) 駮 (306) 坐 (306) 兀 (306)

嚙 (322) 譖 (322) 這 (321) 鷺 (321) 榻 (320) 裸 (319) 襴 (319) 瞥 (319) 鑼 (319) 徊 (319) 馭 (318) 鏤 (316) 奢 (316) 驕 (316) 繞 (316) 嗟 (315) 咄 (315) 粟 (314) 玻 (314) 遙 (314) 舵 (314)

膠 (339) 溜 (338) 茱 (338) 牟 (336) 玲 (335) 吊 (334) 脫 (334) 嘩 (333) 喧 (333) 翹 (333) 雙 (333) 膏 (331) 絆 (331) 挺 (330) 櫛 (330) 仄 (329) 綺 (329) 掬 (326) 枅 (326) 佛 (325) 癩 (323)

擲 (362) 々 (361) 惣 (360) 乎 (359) 囁 (358) 忠 (358) 杳 (356) 暝 (352) 駮 (349) 轟 (349) 廻 (348) 擲 (348) 風 (345) 鳩 (345) 逞 (345) 魁 (345) 佃 (344) 又 (343) 菅 (343) 攔 (340) 檣 (340)

饑 (402) 腔 (401) 浩 (397) 脆 (390) 萌 (389) 遜 (389) 巫 (388) 勁 (388) 洩 (384) 搔 (382) 訊 (382) 椿 (381) 釘 (380) 咎 (379) 咳 (379) 叶 (376) 愕 (371) 耄 (364) 臍 (362) 蜆 (362) 揄 (362)

鯉 (425) 鮭 (425) 諺 (423) 瀑 (422) 冓 (422) 痣 (422) 眸 (421) 笏 (421) 薇 (421) 蓄 (421) 燕 (421) 碧 (421) 篠 (421) 鷹 (420) 翔 (417) 胤 (416) 匍 (412) 拗 (409) 掙 (407) 堵 (406) 盒 (403)

紊 (454) 褶 (452) 遁 (450) 狽 (449) 煌 (449) 朶 (449) 唾 (446) 妾 (444) 喘 (444) 囊 (443) 疽 (442) 蒼 (441) 宰 (440) 薯 (440) 倦 (437) 熙 (435) 膊 (432) 駿 (431) 蘭 (430) 舜 (430) 翅 (425)

萩 (476) 椒 (476) 芙 (476) 檬 (476) 檸 (476) 讐 (476) 迨 (475) 鞞 (475) 謂 (474) 宏 (472) 敲 (471) 芻 (469) 駁 (468) 晦 (468) 嬰 (467) 苑 (467) 癌 (465) 袂 (463) 榆 (459) 喰 (456) 楯 (455)

淳 (479) 麟 (479) 埴 (479) 饒 (478) 葦 (478) 啄 (478) 杜 (478) 棘 (478) 驟 (478) 壺 (478) 俘 (478) 萱 (477) 濯 (477) 吠 (476)

惧(42) 珠(42) 但(41) 夕(41) 為(41) 敢(41) 誰(41) 爪(41) 可(41) 不(41) 偶(41) 懷(41) 哀(39) 還(39) 故人(36) 頰(34) 遺(34) 挿(31) 下衆(27) 陽(26)

抗(81) 暫(80) 相応(79) 傍(76) 零(74) 留(74) 粧(71) 自(71) 飛鳥山(70) 広重(70) 清少納言(69) 出(68) 高階(66) 微塵(64) 掌(51) 貴方(48) 気質(48) 縁(48) 蕎麦(47) 墮(44)

男女(122) 不忍(121) 各自(119) 暖(117) 各自(114) 捧(110) 三(109) 容(103) 夫手(102) 函館(102) 点(102) 魅(101) 昭(98) 醜(97) 普通(96) 幻想(96) 二(93) 立(93) 具(88) 寧(83)

依(153) 路(152) 清(151) 三(151) 拓(150) 足(150) 証(149) 海鼠(147) 薬缶(146) 亡骸(145) 奴(143) 孔(143) 吹(142) 一条(141) 盲(140) 措(140) 己(138) 昨夕(127) 安房(123) 妨害(123)

建屋(172) 倫敦(172) 稚い(171) 磨(170) 愉(170) 辛(170) 韓(169) 洋(168) 下関(166) 北間島(166) 釜山(166) 延世(165) 射(164) 成均館(163) 一柱(163) 他人(161) 吹(158) 恥辱(157) 東柱(157) 滋(155)

闇くら (204) 咽喉のんど (204) 安値やす (204) 蓋ね (204) 倒さか (204) 殷盛さか (203) 一ひ (203) 処こ (203) 照てる (202) 乞食かたみ (202) 濡ぬ (195) 安部あべ (195) 瓶がめ (193) 肯うなず (192) 映え (187) 易やす (184) 微ほほ (183) 思おぼ (178) 陽射ひざ (174) 何処いずこ (173) 時鳥ほととぎす (172)

騒さい (211) 隆たかし (211) 干ほし (211) 硝子がらす (211) 如ごと (211) 芳よし (211) 吟さまよ (211) 史ふみ (211) 夫ぶ (210) 信しの (210) 少女おとめ (210) 晶あき (210) 謝さ (210) 瓶かめ (210) 資糧かて (208) 聖きよ (208) 変かは (208) 御み (206) 陶たう (205) 山羊やぎ (204) 奴め (204)

蔵くら (214) 赤しゃく (214) 出いづ (214) 人葬所ひとほふりど (214) 今夜こよひ (214) 詞ことば (213) 足たら (213) 屋梁はり (213) 玄鳥つばくらめ (213) 蚕かふこ (213) 離か (213) 明あけ (213) 聞きこ (213) 遠とほ (213) 添そひ (213) 来こ (213) 灯ともし (213) 鳳仙花ボンソナ (212) 淡あは (212) 李正子イチヨンジャ (212) 近江おうみ (212)

刀ち (227) 充み (227) 彼方かなた (226) 砂さこ (226) 到いた (225) 樹き (225) 想おも (225) 先ま (225) 哀わい (225) 等ら (223) 化ばけ (222) 玄けん (220) 米よね (220) 康成やすなり (219) 閑しづか (217) 清々すがすが (217) 趣おもむ (216) 万ま (215) 司じ (215) 邦くに (215) 夫お (214)

候ぞう (248) 家や (248) 何ぬ (248) 人ちゆう (248) 集落しま (248) あの世ぐそ (248) 年寄としゆい (247) 取とる (247) 魂込めまぶいぐみ (247) 掛かけ (246) 空す (241) 何某なにがし (229) 解決ソリューション (229) 構成フォーミュレーション (229) 懷いだ (229) 武蔵むさし (229) 災わざわい (228) 出いで (228) 剃刀かみそり (228) 股もも (228) 抛よ (228)

衆 (254) 如何なる (254) 盛 (254) 戻 (254) 早 (254) 敬 (253) 香 (252) 捧 (252) 御 (252) 心配 (252) お前 (252) 童 (252) 姿 (252) 大人 (252) 大事 (251) 塩梅 (251) 者 (251) 線 (250) 婆 (249) 悪 (249) 何処 (249)

衝 (265) 来 (264) 腐れ (263) 博打 (262) 先 (262) 何 (262) 如何し侍りたが (259) 修 (258) 読谷 (258) 兼 (257) 兵 (257) 洞窟 (256) 集落 (254) 直 (254) 有り侍 (254) 粗相 (254) 扱 (254) 先祖 (254) 敬 (254) 事 (254) 居 (254)

槽 (286) 河童 (286) 午飯 (286) 何方 (286) 字 (286) 鹿 (284) 讃岐国 (284) 番 (283) 似非 (281) 睡 (281) 衣物 (280) 囲炉裏 (280) 閉 (280) 頑 (277) 活 (272) 治 (271) 清 (270) 隠 (270) 又 (270) 亀の子 (266) 嘘者 (265)

腸 (297) 房 (297) 東 (296) 日記 (296) 尋常 (296) 平生 (296) 骨碑 (296) 卓 (296) 保 (295) 細 (294) 上 (291) 尾 (291) 温 (291) 画 (290) 古 (290) 八 (289) 灯 (288) 経 (287) 実 (287) 舎 (287) 悪戯 (286)

灯火 (303) 閲 (303) 戴 (302) 女 (302) 珈琲店 (302) 触 (301) 合歡 (301) 棒 (301) 麦酒 (301) 書 (301) 索 (299) 土瀝青 (298) 少女 (298) 隊 (298) 提 (298) 年 (298) 歳 (298) 首 (298) 荒 (298) 訓 (297) 彫 (297)

潮さ (305) 価あはひ (305) 陶瓶たうへい (305) 床ど (305) 右め (305) 油灯ランプ (305) 額ぬか (304) 悪あ (304) 誰た (304) 側そば (304) 項うなじ (304) 貯たくは (304) 酷むご (304) 外人よそびと (303) 目まみ (303) 巾きれ (303) 被かむ (303) 鎖とぎ (303) 楼たかどの (303) 翁おきな (303) 木欄おぼしま (303)

扶たす (311) 朝あした (311) 忙せ (310) 詳つまびら (310) 往ゆき (309) 種いろ (309) 商人あきうど (309) 微かす (309) 食店たへものみせ (309) 午餐ひるげ (309) 数さく (308) 秋とき (308) 愛め (308) 粧よそほ (307) 業わざ (307) 終日ひねもす (306) 背そびら (306) 涙なんだ (306) 辞別わかれ (306) 葬はふ (305) 室へや (305)

駐とど (318) 旦あした (318) 他人ひと (317) 族やから (316) 底そこひ (316) 生計たつき (316) 任務つとめ (316) 性さが (315) 明旦あす (315) 膚はだへ (314) 二重ふたへ (314) 生活なりはひ (313) 廊わたどの (313) 階きざはし (312) 者もり (312) 被おほ (312) 容かたち (312) 起た (312) 疾と (311) 昨夜よべ (311) 悪阻つわり (311)

斑鳩いかるが (345) 較くら (345) 路る (344) 築つき (344) 飾しか (343) 利と (343) 取とり (343) 掌てのひら (340) 礼れ (336) 満みつる (336) 吉よし (336) 恥はずか (330) 小路こうじ (325) 反英雄アンチ・ヒーロー (324) 英雄ヒーロー (324) 議はか (323) 千行ちすじ (323) 痴おろか (323) 埋うづ (320) 訪とぶら (319) 頭かうべ (319)

好よ (371) 縁べり (369) 認したた (369) 棄す (368) 山茶花さざんか (367) 眼め (365) 菜葉なっぱ (365) 吉祥寺きちじょうじ (364) 画え (364) 翌あく (361) 嗣つ (360) 住居ずまい (359) 太宰だざい (358) 識し (354) 科白せりふ (353) 秀ひで (350) 羞は (349) 亡ほろ (349) 極き (348) 附つ (346) 聖しょう (345)

火傷 (421) 炎 (421) 創 (420) 深 (420) 歩行 (420) 荒 (418) 和 (413) 無題 (412) 男 (404) 泰 (404) 祭 (396) 鎮 (396) 介 (394) 踊子 (391) 居 (391) 宣 (391) 洒落 (390) 術 (389) 徒然 (389) 王 (388) 深 (388)

裸足 (450) 公家 (447) 鶏 (440) 周樹人 (437) 紹興 (437) 福建 (430) 浙江 (430) 北京 (430) 明 (430) 水戸 (430) 日暮里 (430) 清 (430) 好 (430) 魯迅 (430) 米 (423) 狩 (422) 切 (422) 重信 (422) 母 (421) 信濃 (421) 飯 (421)

夫婦 (477) 武郎 (474) 有 (474) 武者小路実篤 (474) 聖 (474) 基督 (474) 如何 (474) 涉 (474) 伯 (472) 果 (472) 習慣 (469) 信 (468) 児 (467) 頭 (466) 卓袱台 (463) 主 (459) 弁 (455) 適 (453) 以 (452) 一 (452) 渡辺 (452)

枯 (479) 椎 (479) 雄 (479) 井上 (479) 吉 (479) 海 (479) 治 (478) 住 (478) 勉 (478) 敏 (478) 文 (478) 健 (478) 栄 (478) 善 (478)

出典一覧表

申請図書		出典						備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等		
12～18	アイオワの玉葱	国語教材	詩人であること		171～177	長田弘	岩波書店	1997年	
19	【読解の窓】自他を繋げることばの役割	国語教材							編集委員会による書き下ろし
20～24	情報の彫刻	国語教材	デザインのデザイン		95～101	原研哉	岩波書店	2003年	
25	【読解の窓】メディアと身体	国語教材							編集委員会による書き下ろし
26～32	異なり記念日	国語教材	異なり記念日		211～218	齋藤陽道	医学書院	2018年	
33	【読解の窓】コミュニケーション・モード	国語教材							編集委員会による書き下ろし
34～45	山月記	国語教材	中島敦全集	第1巻	153～160	中島敦	筑摩書房	1976年	
46	【読解の窓】小説の中の会話	国語教材							編集委員会による書き下ろし
47～54	神様	国語教材	神様		9～18	川上弘美	中央公論社	2001年	
55	【読解の窓】書き換えられたデビュー作	国語教材							編集委員会による書き下ろし
56～58	神様2011	国語教材	神様2011		23～28	川上弘美	講談社	2011年	
59	実践①構成と展開を工夫して、変身物語を書こう	国語教材							編集委員会による書き下ろし
60～62	小説読解のポイント	国語教材							編集委員会による書き下ろし
63～65	「私は」——書き出しの一行	国語教材	物語の海を泳いで		20～23	角田光代	小学館	2020年	
66～71	実体の美と状況の美	国語教材	日本人にとって美しさとは何か		164～168	高階秀爾	筑摩書房	2015年	
72	【読解の窓】発見された「日本の美」	国語教材							編集委員会による書き下ろし
73～77	メディアと倫理	国語教材	メディアと倫理		22～26	和田伸一郎	NTT出版	2006年	
78	【読解の窓】映像メディアと編集	国語教材							編集委員会による書き下ろし
79～84	真ん中なる／ならざる風景	国語教材	透明な膜を隔てながら		26～31	李 琴峰	早川書房	2022年	

出典一覧表

申請図書		出典						備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
85	【読解の窓】マイノリティとマジョリティ	国語教材						編集委員会による書き下ろし
86～92	バイリンガリズムの政治学	国語教材	クレオール主義		358～362	今福龍太	筑摩書房	2003年
93	【読解の窓】ポストコロニアリズム・越境	国語教材						編集委員会による書き下ろし
93～98	記号論と生のリアリティ	国語教材	現代言語論			立川健二・山田広昭	新曜社	1990年
99	【読解の窓】認識・言語・分節化	国語教材						編集委員会による書き下ろし
100～110	金縷いの景色	国語教材	分解の哲学 腐敗と発酵をめぐる思考		285～297	藤原辰史	青土社	2019年
111	【読解の窓】破壊と再生	国語教材						編集委員会による書き下ろし
112～137	こころ	国語教材	漱石全集	第六巻	244～269	夏目漱石	岩波書店	1994年
138	【読解の窓】テキストの細部	国語教材						編集委員会による書き下ろし
139	フォーカス1 夏目漱石と「こころ」	国語教材						編集委員会による書き下ろし
140～147	私の個人主義	国語教材	夏目漱石全集	第10巻	621～630	夏目漱石	筑摩書房	1988年
148～155	死者の声を運ぶ小舟	国語教材	The New York Times Magazine (日本語版)			小川洋子	ニューヨーク・タイムズ・カンパニー	2020年
156	【読解の窓】亡くなった人たちの声に耳を傾ける	国語教材						編集委員会による書き下ろし
157～168	空と風と星と詩	国語教材	ハンブルへの旅		241～256	茨木のり子	朝日新聞社	1989年
169	【読解の窓】韓国の文化・文学	国語教材						編集委員会による書き下ろし
170～176	建築論ノート	国語教材	住み家殺人事件		17～25	松山巖	みすず書房	2004年
177	【読解の窓】引用	国語教材						編集委員会による書き下ろし
178～185	プラスチック膜を破って	国語教材	不思議な羅針盤		140～147	梨木香歩	新潮社	2010年

出典一覧表

申請図書		出典						備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
186	【読解の窓】自分の殻を破る	国語教材						編集委員会による書き下ろし
187～193	アイスクリーム熱	国語教材	愛の夢とか		7～13	川上未映子	講談社	2013年
194	【読解の窓】小説の中の人間関係	国語教材						編集委員会による書き下ろし
195～200	鞆	国語教材	笑う月		129～136	安部公房	新潮社	1975年
201	【読解の窓】小説と現実	国語教材						編集委員会による書き下ろし
202	小景異情	国語教材	室生犀星全集	第1巻	26	室尾犀星	新潮社	1964年
203～204	サーカス	国語教材	中原中也全集	第一巻	20～22	中原中也	角川書店	1967年
205～208	永訣の朝	国語教材	新校本宮澤賢治全集	第二巻	354～357	宮澤賢治	筑摩書房	1995年
210	今やかの	国語教材	明治文学全集	第53巻	309	正岡子規	筑摩書房	1975年
210	瓶にさす	国語教材	現代短歌全集	第一巻	202	正岡子規	筑摩書房	1980年
210	髪五尺	国語教材	現代短歌全集	第1巻	103	与謝野晶子	筑摩書房	1980年
210	なにとなく	国語教材	現代短歌全集	第1巻	105	与謝野晶子	筑摩書房	1980年
210	葛の花	国語教材	現代短歌全集	第5巻	321	釈迢空	筑摩書房	1980年
210	桜の花	国語教材	筑摩現代文学大系	15	295	釈迢空	筑摩書房	1978年
211	暴力の	国語教材	昭和文学全集	第35巻	114	斎藤史	小学館	1990年
211	恋よりも	国語教材	昭和文学全集	第35巻	117	斎藤史	小学館	1990年
211	あらはなる	国語教材	現代短歌全集	第10巻	155	近藤芳美	筑摩書房	1980年
211	降り過ぎて	国語教材	現代短歌全集	第10巻	127	近藤芳美	筑摩書房	1980年
211	茶碗の底に	国語教材	現代短歌全集	第12巻	511	山崎方代	筑摩書房	1980年

出典一覧表

申請図書		出典						備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
211	こんなにも	国語教材	現代短歌全集 第16巻	104	山崎方代	筑摩書房	1980年	
211	肺尖の	国語教材	昭和文学全集 第35巻	234	岡井隆	小学館	1990年	
211	ホメロスを	国語教材	昭和文学全集 第35巻	237	岡井隆	小学館	1990年	
212	いのち深く	国語教材	青椿抄	193	馬場あき子	砂子屋書房	1997年	
212	さくら花	国語教材	歌集 桜花伝承	141	馬場あき子	牧羊社	1977年	
212	子がわれか	国語教材	河野裕子歌集	111	河野裕子	砂子屋書房	1991年	
212	たつぷりと	国語教材	河野裕子歌集	104	河野裕子	砂子屋書房	1991年	
212	秋の灯の	国語教材	ナグネタリョン	16	李正子	河出書房新社	1991年	
212	〈生まれたら	国語教材	ナグネタリョン	109	李正子	河出書房新社	1991年	
212	サバンナの	国語教材	ラインマーカーズ	22	穂村弘	小学館	2003年	
212	ほんとうに	国語教材	ラインマーカーズ	21	穂村弘	小学館	2003年	
213～214	死にたまふ母	国語教材	現代日本文学全集大系 38	5～7	斎藤茂吉	筑摩書房	1969年	
215	【読解の窓】定型という魅力	国語教材						編集委員会による書き下ろし
217～219	沈黙の種子	国語教材	屋上への誘惑	186～190	小池昌代	岩波書店	2001年	
220	【読解の窓】日常のことば、詩のことば	国語教材						編集委員会による書き下ろし
221	実践②表現を工夫して大切な場所のエッセイを書こう	国語教材						編集委員会による書き下ろし
222～230	化物の進化	国語教材	怪思考/化物の進化	20～35	寺田寅彦	中央公論新社	2012年	
231	【読解の窓】パラダイム・シフト	国語教材						編集委員会による書き下ろし
232～238	文学の仕事	国語教材	わたしにとっての20世紀	243～253	加藤周一	岩波書店	2009年	

出典一覧表

申請図書		出典						備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
239	【読解の窓】アイデンティティの二側面	国語教材						編集委員会による書き下ろし
240～245	捨てない女	国語教材	光とゼラチンのライブチヒ		153～158	多和田葉子	講談社	2000年
246	【読解の窓】小説の創造力	国語教材						編集委員会による書き下ろし
247～268	魂込め	国語教材	魂込め		7～17、30～45	目取真俊	朝日新聞社	1999年
269	【読解の窓】沖縄文学	国語教材						編集委員会による書き下ろし
270	読書案内	国語教材						編集委員会による書き下ろし
274～278	言葉のあいだの言葉	国語教材	新潮		142～144		新潮社	2018年12月7日 第百十五巻第 十二号
279	【読解の窓】異質な「他者」への想像力	国語教材						編集委員会による書き下ろし
280～284	小説とは何か	国語教材	三島由紀夫全集	第三十三巻	259～262	三島由紀夫	新潮社	1976年
285	【読解の窓】柳田國男と民俗学	国語教材						編集委員会による書き下ろし
286～287	遠野物語	国語教材	柳田國男全集	第二巻	19,30,31～32	柳田國男	筑摩書房	1997年
288～294	陰翳礼賛	国語教材	谷崎潤一郎全集	第20巻	528～533	谷崎潤一郎	中央公論社	1982年
295	【読解の窓】日本文化論	国語教材						編集委員会による書き下ろし
296～323	舞姫	国語教材	鷗外全集	第1巻	425～447	森鷗外	岩波書店	1971年
324	【読解の窓】「舞姫」と日本の近代	国語教材						編集委員会による書き下ろし
325	フォーカス2 近代小説の誕生	国語教材						編集委員会による書き下ろし
326～335	女の子たち風船爆弾をつくる	国語教材	女の子たち風船爆弾をつくる		204～210、 214～215	小林エリカ	文藝春秋	2024年
336	【読解の窓】事実の力——ノンフィクション	国語教材						編集委員会による書き下ろし

出典一覧表

申請図書		出典						備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
337	実践③「編集」という表現方法を楽しもう	国語教材						編集委員会による書き下ろし
338～341	確かにそういう時間があったということ	国語教材	群像		151～152		講談社	2024年1月1日 第79巻第1号
342	【読解の窓】「癒やし」と芸術	国語教材						編集委員会による書き下ろし
343～349	日本文化私観	国語教材	坂口安吾全集	第三巻	375～379	坂口安吾	筑摩書房	1999年
350	【読解の窓】美について語ること	国語教材						編集委員会による書き下ろし
351～356	隠れん坊の精神史	国語教材	精神的考察		13～19	藤田省三	平凡社	2003年
357	【読解の窓】遊戯・子ども	国語教材						編集委員会による書き下ろし
358～372	水仙	国語教材	太宰治全集	第五巻	45～64	太宰治	筑摩書房	1989年
373	【読解の窓】「自己」をめぐるドラマ——太宰治の文学	国語教材						編集委員会による書き下ろし
374～386	王国	国語教材	サキの忘れ物		44～59	津村記久子	新潮社	2020年
387	【読解の窓】物語の持つ力	国語教材						編集委員会による書き下ろし
388～392	無常ということ	国語教材	現代日本文学大系	60	253～254	小林秀雄	筑摩書房	1969年
393	【読解の窓】偉大な思索者・小林秀雄	国語教材						編集委員会による書き下ろし
394～399	骨とまぼろし	国語教材	気流の鳴る音		169～174	真木悠介	筑摩書房	2003年
400	【読解の窓】異なる言語、異なる文化の魅力	国語教材						編集委員会による書き下ろし
401～410	ある〈共生〉の経験から	国語教材	望郷と海		19～27	石川吉郎	筑摩書房	1997年
411	【読解の窓】想像する力	国語教材						編集委員会による書き下ろし
412～413	無題	国語教材	吉原幸子詩集		13～14	吉原幸子	思潮社	1973年
414～415	旅情	国語教材	石垣りん詩集		61～62	石垣りん	思潮社	1971年

出典一覧表

申請図書		出典						備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等		
416～418	N森林公園の冬	国語教材	笑いの成功		88～90	北村太郎	書肆山田	1985年	
420	鷹のつら	国語教材	覚えておきたい極めつけの名句1000		49	村上鬼城	角川学芸出版	2008年	
420	冬蜂の	国語教材	現代日本文学全集	91	87	村上鬼城	筑摩書房	1973年	
420	昼寝起きれば	国語教材	尾崎放哉全集		41	尾崎放哉	弥生書房	1972年	
420	入れものが	国語教材	現代日本文学大系	第95巻	52	尾崎放哉	筑摩書房	1973年	
420	竹馬や	国語教材	現代俳句大系	第9巻	186	久保田万太郎	角川書店	1973年	
420	したゝかに	国語教材	現代俳句大系	第9巻	187	久保田万太郎	角川書店	1973年	
420	金剛の	国語教材	現代俳句大系	第1巻	419	川端茅舎	角川書店	1973年	
420	月光に	国語教材	現代俳句大系	第3巻	166	川端茅舎	角川書店	1972年	
421	雪はげし	国語教材	現代日本文学大系	第95巻	293	橋本多佳子	筑摩書房	1973年	
421	蛍籠	国語教材	現代日本文学大系	第95巻	298	橋本多佳子	筑摩書房	1973年	
421	炎帝に	国語教材	現代日本文学全集	91	187	篠原鳳作	筑摩書房	1973年	
421	しんしんと	国語教材	現代日本文学全集	91	188	篠原鳳作	筑摩書房	1973年	
421	そら豆は	国語教材	昭和文学全集	第35巻	362	細見綾子	小学館	1990年	
421	女身仏に	国語教材	現代俳句大系	第14巻	428	細見綾子	角川書店	1981年	
421	湾曲し	国語教材	昭和文学全集	第35巻	426	金子兜太	小学館	1990年	
421	人体冷えて	国語教材	昭和文学全集	第35巻	427	金子兜太	小学館	1990年	
421	大寒の	国語教材	金子兜太集	第一巻	111	飯田龍太	筑摩書房	2002年	
421	かたつむり	国語教材	金子兜太集	第一巻	170	飯田龍太	筑摩書房	2002年	

出典一覧表

申請図書		出典							備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等		
422	軍鼓鳴り	国語教材	現代俳句	上	442～443	高柳重信	筑摩書房	2001年	
422	樹々ら	国語教材	現代俳句	上	445	高柳重信	筑摩書房	2001年	
422	摩天楼より	国語教材	現代俳句	上	253	鷹羽狩行	筑摩書房	2001年	
422	紅梅や	国語教材	現代俳句	上	257	鷹羽狩行	筑摩書房	2001年	
422	千年の	国語教材	夏石番矢句集		42	夏石番矢	砂子屋書房	1995年	
422	神々の	国語教材	夏石番矢句集		61	夏石番矢	砂子屋書房	1995年	
423	【読解の窓】小説家と俳句	国語教材							編集委員会による書き下ろし
424～428	鈴虫の間、ぼくの六畳間	国語教材	空からきた魚		24～28	アーサー・ビナード	集英社	2008年	
429	【読解の窓】空白の美学	国語教材							編集委員会による書き下ろし
430～437	藤野先生	国語教材	魯迅文集	第二巻	147～154	魯迅	筑摩書房	1976年	
438	【読解の窓】近代日本とアジア	国語教材							編集委員会による書き下ろし
439～450	砲撃のあとで	国語教材	砲撃のあとで		12～26	三木 卓	集英社	1977年	
451	【読解の窓】記憶と記録	国語教材							編集委員会による書き下ろし
452～457	寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか	国語教材	渡辺一夫著作集	11	162～166、173	渡辺一夫	筑摩書房	1970年	
458	【読解の窓】二者択一の罨	国語教材							編集委員会による書き下ろし
459～469	チャンピオンの定義	国語教材	新年の挨拶		3～13	大江健三郎	岩波書店	2000年	
470	【読解の窓】ことばと文学	国語教材							編集委員会による書き下ろし
471	実践③創作の背景について調べよう	国語教材							編集委員会による書き下ろし
472	読書案内	国語教材							編集委員会による書き下ろし

出典一覧表

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
474～479	付録 近現代文学史	国語教材						編集委員会による書き下ろし

- (備考) 1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。
- ①「ページ」の欄には、引用又は新たに作成した教材や資料等の申請図書における掲載ページを示す。
 - ②「名称」の欄には、引用した教材や資料等の申請図書における名称を示す。
 - ③「種別」の欄には、国語教材、楽譜、写真、図、挿絵、表、グラフ、地図などの別を示す。
- 2 「出典」の欄については次のとおりとする。
- ①出典が一般図書の場合は、当該図書の名称(版次を含む。)、掲載ページ、著作者・編集者等、発行者および発行年次を各欄に示す。
 - ②出典が定期刊行物の場合は、発行年次等欄に巻号、発行月日を示す。
 - ③出典が図書でない場合には、備考欄に資料提供者や保有者の氏名又は名称、及び当該資料に付された整理番号等を示すなど、出典を確認することが可能な情報を記入する。
- 3 出典を基に申請図書の発行者が改変を行った場合又はあらたに作成を行った場合は、「備考」欄にその旨を示す。
- 4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。
- (2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること(別途契約を締結する場合を除く)。
- 備考4の内容について確認しました。☑

図 版 出 典 一 覧 表

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
口絵二	風船爆弾用の気球を製作・点検する女子学生ら	写真						林えいだい氏旧蔵、ありらん文庫資料室所蔵、明治大学平和教育登戸研究所資料館提供
口絵二	水彩画作品「かさぶた」堀江 栞	絵画	かさぶた		堀江 栞			堀江栞氏提供
口絵三	広島で被爆した折免滋君の弁当箱と水筒	写真						土田ヒロミ氏提供
口絵三	鎌鼬	絵画			水木しげる			水木プロダクション提供
9	中島敦の水彩画「街並み」	絵画	街並み		中島敦			県立神奈川近代文学館提供
13	アイオワ州のトウモロコシ畑	写真						iStock提供 iStock-517187397
15	アメリカの野菜	写真						ユニフォトプレス提供
18	長田弘氏プロフィール	写真						自社所蔵
22	夏目漱石『吾輩は猫である』表紙(1906年・橋口五葉装丁)	写真						日本近代文学館提供
24	原研哉氏プロフィール	写真						自社所蔵
32	齋藤陽道氏プロフィール	写真						齋藤陽道氏提供
35	中国	図						自社作成
38	橋本雅邦「龍虎図」(部分)1895年	絵画						DNPアートコミュニケーションズ提供 作品番号SAMA2075X002
45	中島敦氏プロフィール	写真						自社所蔵
47	鴨	図						iStock 538472650
49	シュノーケル	図						瀧原愛治氏作成
54	川上弘美氏プロフィール	写真						自社所蔵
70	歌川広重「雪晴れの日本橋」	絵画						自社所蔵
71	高階秀爾氏プロフィール	写真						自社所蔵
73	ヒュン・コン・ウト「戦争の恐怖」	写真						アフロ提供(AP) LKGB437275
74	ロラン・バルト	写真						AFP＝時事提供 1175384
77	和田伸一郎氏プロフィール	写真						自社所蔵
84	李琴峰氏プロフィール	写真						稲垣純也撮影、李琴峰氏提供
87	フリーウェイ上の道路標識	写真						今福龍太氏提供
89	アメリカ・メキシコ国境周辺地図	図						自社作成
91	今福龍太氏プロフィール	写真						自社所蔵
94	フェルディナン・ド・ソシュール	写真						自社所蔵
96	内田春菊『幻想の普通少女』	絵画	幻想の普通少女	75 ～	内田春菊			双葉社
97	サルトル	写真						自社所蔵
98	立川健二氏プロフィール	写真						自社所蔵
104	樹液を採取するため傷がつけられたウルシの木	写真						ピクスタ提供 No.18872763
107	漫符	図						自社所蔵
108	堀道広が金継ぎを施した皿	写真						藤原辰史氏提供

図 版 出 典 一 覧 表

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
110	藤原辰史氏プロフィール	写真						藤原辰史氏提供
123	当時の本郷周辺略図	図						自社所蔵
130	「こころ」直筆原稿	写真						自社所蔵
137	夏目漱石氏プロフィール	写真						自社所蔵
139	「東京朝日新聞」連載の「こころ」	写真						自社所蔵
155	小川洋子氏プロフィール	写真						自社所蔵
161	尹東柱	写真						自社所蔵
164	韓国版『空と星と詩』	写真						自社所蔵
168	茨木のり子氏プロフィール	写真						自社所蔵
171	トマス・ハーディの生家	写真						アマナ・イメージズ提供 22040248927
173	時鳥	図			瀧原愛治			瀧原愛治氏作成
173	梟	図			瀧原愛治			瀧原愛治氏作成
176	丸山巖氏プロフィール	写真						自社所蔵
179	人で混雑するプラットフォーム	写真						ピクスタ提供 No.22336437
193	川上未映子氏プロフィール	写真						川上未映子氏提供
199	ミラーの中の街(撮影・安部公房)	写真			安部公房			安部わり氏提供
200	安部公房氏プロフィール	写真						自社所蔵
218	秋田県男鹿半島の入道崎	写真						自社所蔵
219	小池昌代氏プロフィール	写真						自社所蔵
223	雷神図(「風神雷神図屏風」尾形光琳筆)	絵画						ColBase提供
230	寺田寅彦氏プロフィール	写真						自社所蔵
236	舞台上「マクベス」を演じる俳優(イギリス、1850年頃)	絵画						ゲッティイメージズ提供 No.171197808
238	加藤周一氏プロフィール	写真						自社所蔵
245	多和田葉子氏プロフィール	写真						自社所蔵
250	アーマン(オカヤドカリ)	写真						フォトライブラリー提供
258	シムクガマ(読谷村宇波平 上羽修撮影)	写真						自社所蔵
260	産卵を終え海に帰るウミガメ(沖縄県宮古島市)	写真						アマナ・イメージズ提供 (作品番号) 10209000812
266	月の光の揺れる海(沖縄県波照間島)	写真						アマナ・イメージズ提供 (作品番号)02616003872
268	目取真俊氏プロフィール	写真						自社所蔵
270	『台湾生まれ 日本語育ち』(恩又柔)	写真						自社所蔵
270	『文系と理系はなぜ分かれたのか』(隠岐さや香)	写真						自社所蔵
270	『動物農場』(ジョージ・オーウェル)	写真						自社所蔵
270	『こちらあみ子』(今村夏子)	写真						自社所蔵
270	『桜の森の満開の下』(坂口安吾)	写真						自社所蔵
270	『たったこれだけの家族』(河野裕子)	写真						自社所蔵

図 版 出 典 一 覧 表

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
270	『2週間で小説を書く!』(清水良典)	写真						自社所蔵
271	太宰治が晩年、友人のアトリエで描いたとされる油彩画「自画像」	写真	自画像		太宰治			三鷹市提供
275	人種差別や偏見に抗議の声を上げる人々(2016年、アメリカ)	写真						自社所蔵
278	柴崎友香氏プロフィール	写真						自社所蔵
281	囲炉裏	写真						ピクスタ提供 No.63482018
284	三島由紀夫氏プロフィール	写真						自社所蔵
288	燭台	図						森宏作製
288	行灯	図						森宏作製
289	江戸時代の時絵(尾形九琳「八橋時絵祝筈」)	写真						東京国立博物館所蔵
292	神戸市東灘区にある、谷崎潤一郎の旧邸「倚松庵」外観(上)と内部(下)	写真						神戸市都市計画総局提供
292		写真						神戸市都市計画総局提供
294	谷崎潤一郎氏プロフィール	写真						自社所蔵
299	ウンテル・デン・リンデン(1909年)	写真						自社所蔵
299	鈴索	図						林丈二・林節子氏所蔵
305	マンサルド	図						林丈二・林節子氏所蔵
309	引き窓	図						林丈二・林節子氏所蔵
311	鉄炉	図						林丈二・林節子氏所蔵
312	ドロシユケ	図						林丈二・林節子氏所蔵
314	陶炉	図						林丈二・林節子氏所蔵
316	エポレット	図						林丈二・林節子氏所蔵
321	ブランデンブルク門(1894年)	写真						自社所蔵
323	森鷗外氏プロフィール	写真						自社所蔵
328	太平洋戦争終結後、劇場として再開した東京宝塚劇場の客席(1955年)	写真						毎日新聞社提供
334	アメリカ上空で撮影された風船爆弾(1945年)	写真						自社所蔵
335	小林エリカ氏プロフィール	写真						小林エリカ氏提供
341	堀江葉氏プロフィール	写真						堀江葉氏提供
344	小菅刑務所(1954年)	写真						アフロ提供 aflo6640876
346	旧日本軍の駆逐艦(撮影日未詳)	写真						アフロ提供 aflo_13917280
347	坂口安吾の書斎(林忠彦撮影)	写真						自社所蔵
349	坂口安吾氏プロフィール	写真						自社所蔵
356	藤田省三氏プロフィール	写真						自社所蔵
371	太宰 治(田村茂 撮影)	写真						田村茂事務所提供
372	太宰治プロフィール	写真						自社所蔵
375	ラップムシ	写真						ピクスタ提供 No.31829151

図 版 出 典 一 覧 表

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
377	『旧約聖書』に登場するデリラ(1846年、作者不詳)	絵画						ユニフォトプレス提供 ファイル番号:5.C030/1971
386	津村記久子氏プロフィール	写真						自社所蔵
389	日吉大社 西本宮楼門	写真						JTBフォト提供 C738-002415N
392	小林秀雄氏プロフィール	写真						自社所蔵
396	湖の上に築かれた都(16世紀)	絵画						アマナ・イメージズ提供 (作品番号) ALMMKKMEN
398	聖週間に街をねり歩く聖母マリア像(グアテマラ)	写真						アマナ提供 商品コード50300011213
399	真木悠介氏プロフィール	写真						自社所蔵
401	イソギンチャクと(共生)するヤドカリ	写真						ピクスタ提供 No.37809034
403	旧ソ連領内の日本人収容所(昭和21年頃)	図						自社作成
403	飯盒	図			森宏			森宏氏作成
404	香月泰男「シベリア・シリーズ」より「-35℃」(1971年)	絵画			香月泰男			山口県立美術館・香月婦美子
407	つるはし	図			瀧原愛治			瀧原愛治氏作成
410	石原吉郎氏プロフィール	写真						自社所蔵
421	そらまめ	写真						ネイチャー・プロダクション提供 TIN 7871
426	追穂田(東京都荒川区)懸虫(江戸石所図会)	絵画						国立国会図書館提供
428	アーサー・ビナード氏プロフィール	写真						自社所蔵
431	弁髪	図						瀧原愛治作成
433	魯迅の解剖学のノート	写真						北京魯迅博物館・東北大学
433	魯迅に送られた藤野先生の写真(部分)と重画	写真						北京魯迅博物館・東北大学
436	魯迅氏プロフィール	写真						北京魯迅博物館・東北大学
437	魯迅氏プロフィール	写真						自社所蔵
450	三木卓氏プロフィール	写真						自社所蔵
456	「サン・バルテルミーの虐殺」(一部)	写真						自社所蔵
457	渡辺一夫氏プロフィール	写真						自社所蔵
461	楡(orme-pleureur)	写真						Alamy/アフロ所蔵
463	卓袱台	図						森宏氏作成
464	champion(英英辞典より)	写真						自社所蔵
469	大江健三郎氏プロフィール	写真						自社所蔵
472	『塩一トンの読書』(須賀敦子)	写真						自社所蔵
472	『刺青』(谷崎潤一郎)	写真						自社所蔵
472	『ショウコの微笑』(チェ・ウニョン)	写真						自社所蔵
472	『私を離さないで』(カズオ・イシグロ)	写真						自社所蔵
472	『百人一首という感情』(最果タヒ)	写真						自社所蔵
472	『「女装と男装」の文化史』(佐伯順子)	写真						自社所蔵
472	『「私」をつくる―近代小説の試み』(女藤花)	写真						自社所蔵
473	中村不折『吾輩は猫である』挿絵	写真						自社所蔵

図 版 出 典 一 覧 表

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
口絵四	書齋の漱石 1914(大正3)年12月	写真						自社所蔵
口絵四	「こころ」下宿の想定図	図						瀧原愛治作成
口絵四	『こころ』初版本の印	写真						自社所蔵
口絵四	『こころ』初版本の扉	写真						自社所蔵
口絵四	太宰の生家	写真						太宰治記念館所蔵
口絵四	酒場の太宰 1947(昭和22)年	写真						自社所蔵
口絵五	ヴィクトリア座	写真						山崎一穎氏所蔵
口絵五	ティーアガルテン	写真						PPS通信社提供 AKG-Images (L) akg_259056
口絵五	1888年ごろのベルリン市街図	地図						自社作成
口絵五	1888年ごろのクロステル街	写真						山崎一穎氏所蔵
口絵五	ドイツ皇子時代の鷗外・原田直次郎・石匠	写真						山崎一穎氏所蔵

(備考) 1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。

- ①「ページ」の欄には、引用又は新たに作成した教材や資料等の申請図書における掲載ページを示す。
- ②「名称」の欄には、引用した教材や資料等の申請図書における名称を示す。
- ③「種別」の欄には、国語教材、楽譜、写真、図、挿絵、表、グラフ、地図などの別を示す。

2 「出典」の欄については次のとおりとする。

- ①出典が一般図書の場合は、当該図書の名称(版次を含む。)、掲載ページ、著作者・編集者等、発行者および発行年次を各欄に示す。
- ②出典が定期刊行物の場合は、発行年次等欄に巻号、発行月日を示す。
- ③出典が図書でない場合には、備考欄に資料提供者や所有者の氏名又は名称、及び当該資料に付された整理番号等を示すなど、出典を確認することが可能な情報を記入する。

3 出典を基に申請図書の発行者が改変を行った場合又はあらたに作成を行った場合は、「備考」欄にその旨を示す。

4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。

- (2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること(別途契約を締結する場合を除く)。

備考4の内容について確認しました。☑

加 除 訂 正 表

申請図書			原文(ページ数・行数は原文のもの)	加除訂正文(ページ数・行数は申請図書のもの)	理由
ページ	名称	種別			
12～18	アイオワの玉葱	国語教材	①(176ページ12行目～14行目)もしもそうであれば、母語を「国語」として言葉がそのまま国家をあらわすものようにはかंगाえないほうがいいし、じぶんの言葉を母語といい、「国語」といわない約束を、わたしたちは最低限たがいにまもっていったほうがいい。 ②(177ページ7～8行目)世界をじぶんたちのもつ語彙でしかめったに理解しようとしてないアメリカ人たちのあいだに混じって暮らしていると、そのことはいっそう痛切にかんじられた。	①②削除	①②学習上の配慮
26～32	異なり記念日	国語教材	①(211ページ13行目～212ページ1行目)写真を本格的にやろうと思った時期と重なっているのは間違いないので、	①削除	①分量の調整
			②(214ページ4行目～6行目)(ふと調べてみると、たぶんそのときは二〇〇七年で、ぼくにとってコミュニケーションの方法を大きく変えてくれた核心的なiPhoneが発表された年だった！)	②削除	②分量の調整
			③(216ページ3行目)iPhone	③(30ページ6行目)携帯端末	③特定の商標名を出さない配慮
			④(217ページ8行目～10行目)「こんなおらに、親切にさせていただいて……ありがてえだ。おだいじんさま、ぼさつさま、ほとけさま、ほんたうにありがてえありがてえ。」というような	④削除	④分量の調整
73～77	メディアと倫理	国語教材	①(22ページ10行目)先にも述べたように、	①削除	①前後の文脈をつなげる学習上の配慮
			②(24ページ10行目)(なぜここで責任が生じてくるかについては後で述べる)	②削除	②学習上の配慮
79～84	真ん中なる／ならざる風景	国語教材	①(27ページ1行目～2行目)「性欲と無性欲の真ん中」として「デミセクシュアル」というセクシュアリティも存在している。	①削除	①学習上の配慮
			②(27ページ11行目)Selinker	②削除	②学習上の配慮
			③(28ページ11行目～12行目)今でも「生産性がない」「人間ならパンツは穿いておけよ」を言われる度に悲しみ、苦しみ、怒り心頭に発するのである。	③削除	③学習上の配慮
			④(28ページ16行目)5ちゃんねる	④(81ページ13行目)インターネットの電子掲示板	④特定の商標名を出さない配慮
100～110	金繕いの景色	国語教材	①(286ページ1行目～2行目)オロモの人びとの犁は、犁刃だけを買って換えるだけで、本体はメンテナンスをして使い続ける。	①削除	①分量の調整
			②(286ページ3行目～4行目)オロモの人びとは、文明社会から取り残された哀れな農耕民などではなく、最先端のテクノロジーのあり方を「文明」を気取る人びとに示しているのである。	②削除	②分量の調整
			③(287ページ10行目)5 金繕い	③削除	③学習上の配慮

加 除 訂 正 表

申請図書			原文(ページ数・行数は原文のもの)	加除訂正文(ページ数・行数は申請図書のもの)	理由
ページ	名称	種別			
100～110	金繕いの景色	国語教材	<p>④(287ページ13行目～16行目)白鳥由加利著、原一菜監修『金繕いの本』によると、「金繕い」の「繕い」という言葉のほうがかみ正しいからである。その技術が発祥した室町時代以降、「繕い」「漆つくろい」という名称が使われるようになった、ということからも、金繕いという表現のほうが正確であることが分かる。金継ぎは「金繕いの技術の一部分を指す職人の略式名称」である。</p>	④削除	④分量の調整
			<p>⑤(288ページ14行目～289ページ14行目)漆を修繕するという作業は時間がかかり、複雑である。短くて数ヶ月、長くて一年以上かかる作業である。ちょうど、ミズや微生物などの土壌中の分解者たちが、地表の有機物を、時間をかけて、より小さな有機物や無機物へと変えていくように、金継ぎは遅効性の営みである。しかも、道具も多数必要だ。粉などを混ぜるための板、混ぜるためのヘラ、撒絵筆、生漆、呂色漆、ベンガラ漆、砥の粉、小麦粉、木の粉、金粉、筆を洗うための菜種油、漆に混ぜる無水エタノール、かぶれを防ぐゴム手袋、水、金粉を蒔く真綿、耐水サンドペーパー、漆のはみ出したところをカットするカミソリの刃、ずれを防止するマスキングテープなどが必要である。</p> <p>工程も複雑である。たとえば、割れた食器を例にとってみよう。前処理として、修繕したい器を洗い、乾かし、接着面を粗めのサンドペーパーで研ぐ。少量の生漆とエタノールを混ぜて、それを接着面に筆を用いて塗って、布でおさえるように拭き取る。キャンドルの炎で接着面を一、二分炙り、コーティング。強力粉に水を加えて練ったものに生漆を加え混ぜる。これを麦漆と呼ぶ。麦漆は竹ペラを使って接着面に塗り込み、マスキングテープで固定、この状態でムロに入れて二週間乾かす。カミソリの刃ではみ出した麦漆を削り取り、サンドペーパーで整え、細筆を使って呂色漆を塗ってコーティング。さらにムロにいれて一日乾かす。またサンドペーパーで表面がなめらかになるまで磨く。そこに生漆を攪拌して黒くしたもの(絵漆)にベンガラをまぜた漆を接合部に塗る。金粉を真綿にまぶし、指ではたくように振りかける。そのあとふたたび二、三日ムロに入れる。無水エタノールで薄めた生漆を塗り、ティッシュなどで拭き取り、一日乾かす(これを三階繰り返すと金がより定着する)。最後に、鯛牙やサンドペーパーを使って金を磨き、光沢を出す。指に菜種油を馴染ませ、指紋に入る程度の石粉を付け、光るまで磨く。</p>	⑤削除	⑤分量の調整
			<p>⑥(290ページ6行目～10行目)6 器の「景色」</p> <p>ここで重要だと思われるのは、金繕いの技術では、壊れ方を四つに分類していることである。ものが壊れたあとに関心を持つことが少なくなり、ゴミ箱に捨てることに慣れた現代人にとって、壊れ方を分類するとは無駄なように思える。壊れ方を観察する時間があれば、新しいものを作るためのアイデアを絞ったほうが時間的に効率が良いからだ。</p>	⑥削除	⑥学習上の配慮
			<p>⑦(292ページ11行目～293ページ5行目)小澤典代の『金継ぎのすすめ』には、若手の金継ぎ職人の作品とインタビューが紹介されている。職人たちの言葉には、これまで述べてきたような瑕に対する逆転の発想がある。漫画家であり金継ぎ作家である堀道広は、富山県出身で、輪島漆芸技術研修所で基礎を習得していま「金継ぎ部」という都内のワークショップを主宰し、漆に関わりつつ、漫画も描いている。堀は、金繕いの用いられる漆についてこう述べている。「中心になるものではないけれど、支える存在という印象があって。そうしたあり様に惹かれるんだと思います。金継ぎも、それ自身が主役ではなく、あくまで壊れた器を修繕するための技術。壊れてしまい本来なら捨てられてしまうもの、ものとして運命が終わってしまうもの、いわば、目の当らなくなってしまうものを再生する技術であることが好きなんだろうね。堀自身、繕われた器に囲まれて暮らしている。</p> <p>この記事を見て、私は堀の話を知りたくなった。まったくの偶然だが、この記事を読んだあと、私の前著『食べるとはどういうことか』(二〇一九年)の表紙の絵と挿画を担当する予定の漫画家が堀であることを知って驚いた。編集者を通じて連絡し、二〇一九年三月一日、私は堀の作業所に訪れて話を聞いた。</p>	⑦削除	⑦学習上の配慮
<p>⑧(293ページ16行目～17行目)最後の点については、堀の著作『おうちでできるおおらか金継ぎ』(二〇一八年)にも、「天然素材である漆で繕えば、体に無害であり、やり直すこともできます」と記してある。</p>	⑧削除	⑧学習上の配慮			

加 除 訂 正 表

申請図書			原文(ページ数・行数は原文のもの)	加除訂正文(ページ数・ 行数は申請図書のもの)	理由
ページ	名称	種別			
100～110	金繕いの景色	国語教材	<p>⑨(294ページ3行目～7行目)また、同様に金継ぎ作家である榎谷明日香も、「作品づくりという自己表現よりも、人に喜ばれたり、役立っていると思えることが嬉しくて」と、一歩引いている感覚に満足を感じつつも、「壊れたものの集合は暗いんです。でも、直していくうちに、ものから明るく元気な何かが発せられるのを感じます。それが地味な作業を続ける理由です。」と金継ぎの存在意義を明確に打ち出すとともに金継ぎが醸し出す味わいについても言及している。</p>	⑨削除	⑨分量の調整
			<p>⑩(295ページ8行目～296ページ10行目)私は、金繕いのことを考えているうちに、松嶋健の、イタリアの精神医療の歴史と現状の研究である『ブシコ・ナウティカ——イタリアの精神医療の人類学』(二〇一四年)を無性に再読したくなった。たまたま開いたページが、ブドウ農場の話が書いてある「多様性と補完性」という節だった。イタリアには「労働市場から排除されがちな、社会的に脆弱な立場にある人々に対して、実際に仕事をする体験をしてみようことで、労働市場の参入の敷居を下げようというねらい」を持つ「労働奨励金」制度というものがある。松嶋は、この制度を利用してブドウ農場で働いている三〇代の男性ロレンツォの聞き取りを行なっているが、コミュニケーションが苦手な「自分の内的な感覚に対して過剰に敏感にみえる」彼がこのブドウ農場での労働のなかでブドウのふさの切り取りの工夫を楽しむ姿を紹介している。精神障害者、身体障害者、元受刑者、元薬物依存者など労働市場から剥落した人びとがここで働いており、何か不思議な風通しの良さを感じる農場である。なぜか。この農場主ジェンティリーニ氏の発言が収録されているのだが、ここにヒントがある。「社会は多様な人間、多様な存在からなっているからこそ、一緒に何かをすることができるのだと。でも一緒に何かをするためには、それなりの作法がそこには必要だ。それが補完性ということであって、その二つがうまくかみ合うと、そこから何か創造的なものが生み出される」。あるいは「やれ雑草だ、やれ外注だ、と言っては排除するのは人間の一方的な都合であって、どんな草も、虫も、微生物も自分たちの生を全うしているだけだ」。一見よくある有機農法家の常套句のようにも聞こえるが、そうではない。ここで有機農業を実践するジェンティリーニ氏(とそれを紹介する松嶋)が、まさに人びとの「欠け」や「ほつれ」や「ひび」の補完性と、自然界の「欠け」や「ほつれ」や「ひび」の補完性を同じレベルで語れているのは、それが自分の生を全うしているだけ、といういささか突き放した観察に依っているからであり、それが凡百のエコロジイ的言説にはない迫力となって読者の耳に響くのである。</p>	⑩削除	⑩分量の調整
			<p>⑪(296ページ12行目)序章で論じた</p>	⑪削除	⑪学習上の配慮

加 除 訂 正 表

申請図書			原文(ページ数・行数は原文のもの)	加除訂正文(ページ数・行数は申請図書のもの)	理由
ページ	名称	種別			
157～168	空と風と星と詩	国語教材	<p>① (242ページ14行目)獄死させられた</p> <p>② (243ページ2行目)そこで得体のしれない注射を連日打たれ、</p>	<p>①(158ページ10行目)獄死した</p> <p>②(158ページ13行目)そこでよくわからない、注射をくり返し打たれたという</p>	
			<p>③ (243ページ7行目～8行目)いわば日本検察の手によって殺されたようなものである。</p> <p>④ (241ページ10行目～249ページ13行目)安東柱は留学生時代、立原道造を読んでいた。年譜でそれを知った時、ハッとした。安東柱の詩を読んでいると、その抒情の質が立原道造に似ているような気が漠然としていたから。</p> <p>眠りの誘ひ 立原道造 ともし火のやうに 風のやうに 星のやうに 私の声はひとふしにあちらこちらと.....</p> <p>するとおまへらは林檎の白い花が咲き ちひさい緑の実を結び それが快い速さで赤く熟れるのを 短い間に眠りながら見たりするであらう</p> <p>帰って見る夜 尹東柱 一日の鬱憤を晴らすすべもなく そとと顔を閉じれば心の裡へ流れる音 いま 思想がりんごのようにおのずから熟れていきます(伊吹出訳)</p> <p>林檎のイメージが共通というばかりではなく、一見弱そうにみえながら、ピアノ線のようにピンと張った透明な抒情の質に、或る共通性が感じられてならない。 もちろん尹東柱のほうが、はるかに鬱屈の度合は深いけれども。 もはや聞くすべもないが、立原道造の詩をどういふふうにしたのかを知りたくて、あらためて二人の詩集をそういう角度から丹念に読んでみた。 つぶさにみればずいぶん違う。立原道造の詩は音楽のようで、意味に重きがおかれていない。一方、尹東柱の詩は、核とか芯がありたえずそこへ集約されてゆき、隠された意味も重く深い。 立原道造が亡くなってから数年後の、留学生時代に尹東柱は読んでいるわけだが、日帝側のいい気な詩人というふうには読んでいないように感じられる。青春の哀歎、問いかけ——むしろ青年どうしの共感を覚えながらではなかったろうか？ という推定を消すことができない。 立原道造の写真は、たいていうっすら口をあけているが、尹東柱の写真はいつもきりと口を結んでいる。二人ともいい顔である。 立原道造も尹東柱も、いまだにそれぞれの国の若い女子学生に愛され、読みつかれているのだが、写真が現してしまっているような純粹さを、詩の中にも敏感に感じとってしまうせいこちがいない。</p>	<p>③削除</p> <p>④削除</p>	

①～⑥学習上の配慮

加 除 訂 正 表

申請図書			原文(ページ数・行数は原文のもの)	加除訂正文(ページ数・ 行数は申請図書のもの)	理由
ページ	名称	種別			
157～168	空と風と星と詩	国語教材	<p>⑤ (254ページ1行目～255ページ10行目)</p> <p>もうひとつの故郷 ふるさとへ帰ってきた夜に おれの白骨がついて来て同じ部屋に寝転んだ。</p> <p>暗い部屋は宇宙へ通じ 天空からか、音のように風が吹いてくる。</p> <p>闇の中できれいに風化する 白骨を覗きながら 涙ぐむのは おれなのか 白骨なのか 美しい魂なのか</p> <p>志操高い犬は 夜を徹して闇に吠えたてる。 闇に吠える犬は おれを逐っているのだろう。</p> <p>ゆこう ゆこう 逐われる人のようにゆこう 白骨にこっそり 美しいもうひとつのふるさとへゆこう。 (伊吹郷訳)</p>	⑤削除	
			<p>二十四歳の時の作品だが、三年後の死を予見しているような詩である。クリスチャンでもあった尹東柱の「もうひとつのふるさと」は何処を指していただろうか。 童謡を書いていた二十歳頃のペンネームは童舟という愛らしいものだった。</p>		
			⑥ (256ページ7行目)これもハングルを学ぶ道すがら、その途次でのことであった。	⑥削除	

加 除 訂 正 表

申請図書			原文(ページ数・行数は原文のもの)	加除訂正文(ページ数・行数は申請図書のもの)	理由
ページ	名称	種別			
170～176	建築論ノート	国語教材	<p>①(19ページ13行目)百年前病床にあった子規が身近に感じた根岸周辺の変貌を思い浮かべればわかる。</p>	①削除	①学習上の配慮
			<p>②(21ページ9行目～23ページ13行目) 若い夫婦に三人目の子どもが生まれた。家は夫婦ふたりだけでも狭い。子どもが三人になればなおさら不便だ。そこで町から少し離れた土地を借り、住まいを建てることにした。 夫と妻はそれぞれ自分が考える住まいの図を描いてみた。ところが意見は合わず、ひとつの案にはまとまらない。困り果てて、友人の勧めで建築家の事務所を訪れる。建築家は図面を引いて、ひとつひとつの部屋と階段の大きさ、位置を説明し、その住居こそ彼らが暮らす「唯一の方法」だと話した。ふたりは建築家の専門的な用語を駆使した説明に疲れ、結局、その建築家に設計を委ねることにした。建設がはじまって夫は工事現場を見に出かける。思ったより狭く見える。不満もある。しかし高い足場に登らされ、建築家に説明されるうちに、自分の意見を伝えられなくなる。妻のほうは建築家の事務所へよく通い、質問もし、意見も伝えた。だが、彼女の意見は伝わったろうか。彼女の熱心さも燃え尽きたころ、住居はようやくできあがった。 見てまわり、いくつか手直ししてもらったら「予算外工事」となり、その額の大きさにふたりはびっくりした。もうなにもいえない。ともかくも引っ越した。使い方がわからない家具もある。いらいらはつもの。そしてある晩、妻は夫に叫んだ。「子ども部屋の窓に横木が一本もないわ。落ちたらどうするの。なぜ、あなたは子ども部屋を三階につくったの」と。 この話は現代のことではない。 建築家であったトマス・ハーデイが、一八六五年に発表した短篇「私家が建てた方法」のあらすじだ。彼のデビュー作である。おなじような話は現代日本でもゴロゴロころがっているだろう。 だからこの短い話に人はそれぞれにさまざまな感想を抱くだろう。 夫に同情する人。妻に共感する人。建築家の説明不足や傲慢さを指摘する人。建築家の立場を理解する人。夫婦は住まいを建てる時、もっと研究すべきだと指摘する人。新しい住まいを建てること自体がうらやましいと考える人。集合住宅のなかから広い部屋を探すべきだと主張する人。建て売り住居を買えばよかったのにとと思う人。百年以上前にイギリスで起きたことがようやくいまの日本で生じているのだと感じる人などなど。 たとえ一個の鍋についてであれ、人はいろいろな意見をもつ。日々使うものだからだ。まして生活の基礎であり、金額のはる住まいをつくることは、人々に考えと記憶、多彩な思いを呼び起こす。にもかかわらず、多彩な考えや記憶がかえって肝腎の子どもの存在を忘れさせる。 芸術にあつて、理論はたいして重要でないという説があるが、これは譏誣もはなはだしい。これは、理論が、ただ世界的に共通する価値をもたないということではしかない。理論はいずれもただ一人のための理論なのだ。一人の道具なのだ。彼のために、彼にあわせて、彼によって作られた道具なの。……X氏の道具である理論は、X氏には真理だが、一般的に真理でない理論自身が宣言しないのが理論の欠点なのだ。 (ポール・ヴァレリー『文学論』堀口大學訳) ヴァレリーの逆説は、芸術にかぎらず、というよりもむしろ生活上のさまざまな事柄に通じるだろう。たとえば、新しく家を建てる時にもあてはまる。建て主である夫と妻との理論、住まいを設計する建築家の理論、建設工事を担当する業者の理論は、それぞれ異なっているだろう。だから各々が自分の理論を主張すれば、「ただ一人のための理論」となつてぶつかり合ったままとなる。その結果、もうひとりの主役である子どもたちの存在を忘れてしまう。子どもが、たとえば身の危険に気づかずに、三階の窓から身を乗り出すことも忘れてしまう。ヴァレリーの言葉のなかで要点は「一般的に真理でない理論自身が宣言しないのが理論の欠点」ということだ。自分では完璧だと考えている理論も他人の耳には理論に聞こえないことが多い。</p>	②削除	②分量の調整

加 除 訂 正 表

申請図書			原文(ページ数・行数は原文のもの)	加除訂正文(ページ数・行数は申請図書のもの)	理由
ページ	名称	種別			
222～230	化物の進化	国語教材	①(20ページ12行目～21ページ2行目)今年のグラスゴウの科学者の大会でシンプソンとウィルソンと二人の学者が大議論をやったそうであるが、これは正にこの化物の正体に関する問題についてであった。	①削除	①学習上の配慮
			②(22ページ6行目～23ページ4行目)前年誰か八頭の大蛇とヒドラのお化けとを比較した人があった。近頃にはインドのヴィシヌとギリシアのポセイドンの関係を論じている学者もある。またガニミド神話の反映をガンダラのある彫刻に求めたある学者の考えでは、驚がガルダに化けた事になっている。そして面白い事にはその彫刻に現されたガルダの顔貌が、わが邦の天狗大和尚の顔によほど似たところがあり、また一方ではジャヴァのある魔神によく似ている。またわれわれの子供の時から御馴染の「赤鬼」の顔がジャヴァ、インド、東トルキスタンからギリシアにかけて、いろいろの名前と表情とをもって横行している。また大江山の酒顛童子の話とよく似た話が支那にもあるそうであるが、またこの話はユリシースのサイクロプス退治の話とよほど似たところがある、のみならずこのシュテンドウシがアラビアから来たマレイ語で「恐ろしき悪魔」という意味の言葉に似ており、もう一つ脱線すると源頼光の音読がヘラクレスとどこか似通ってたり、もちろん暗合として一笑に附すればそれまでであるが、さればと云って暗合であるという科学的省名も六かしいような事例はいくらでもある。ともかくも世界中の化物達の系図調べをする事によって古代民族間の交渉を探知する一つの手掛りとなり得る事はむしろ既知の事実である。そうして言論や文字や美術品を手掛りとするこれと同様な研究よりもいっそう有力であり得る見込がある。何故かと云えば各民族の化物にはその民族の宗教と科学と芸術が綜合されているからである。	②削除	②分量の調整
			③(25ページ12行目～26ページ6行目)科学の中等教科書は往々にしてそれ自身の本来の目的を裏切って被教育者の中に芽生えつつある科学者の胚芽を殺す場合がありはしないかと思われる。実は非常に不可思議で、誰にも本当は分らない事をきわめて分り切った平凡な事のようにあまりに簡単に説明して、それでそれ以上には何の疑問もないかのようにすっかり安心させてしまうような傾きがありはしないか。そういう科学教育が普遍となりすべての生徒がそれをそのまま素直に受け入れたとしたら、世界の科学はおそらくそれきり進歩を止めてしまうに相違ない。 通俗科学などと称するものがやはり同様である。「科学ファン」を喜ばすだけであって、本当の科学者を培養するものとしては、どれだけの効果が果してその弊害を償い得るか問題である。特にそれが科学者としての体験を有たない本当のジャーナリストの手によって行われる場合にはなおさらの考えものである。 こういう皮相的科学教育が普及した結果として、	③削除	③学習上の配慮
			④(27ページ3行目～4行目)私は前に「提馬風」のお化けの正体を論じた事がある。その後	④削除	④前後の文脈をつなげる学習上の配慮
			⑤(29ページ3行目～33ページ13行目)「鸚鵡石」という不思議な現象の記事を、『輪軒小録』、『提醒紀談』、『笈埃随筆』等で散見する。～CとHとOだけの組合せで多数の有機物が出るようなものかもしれない。これも一つの空想である。	⑤削除	⑤分量の調整

加 除 訂 正 表

申請図書			原文(ページ数・行数は原文のもの)	加除訂正文(ページ数・行数は申請図書のもの)	理由
ページ	名称	種別			
232～238	文学の仕事	国語教材	①(243ページ10行目～244ページ8行目)ただし、文学はさりながら、だんだん娯楽になって商業的な世界に商品として吸収されていく。そうなれば、その商品化された文学というのは別に人生の目的を考えるときに役立たなくなります。狭い技術的な領域に入りこんでしまえば、人生の目的を文学との関係において決めていこう、考えていこうというのに文学はほとんど役に立たなくなってしまう。それは娯楽とは違った意味で、一種の知的ゲームみたいなのになってしまうからです。 今、文学の商業化とそれから高度の専門化という、両方の傾向があって、どちらも文学に頼らなければどうして人生の目的とか社会の目的について語る事ができるのか、という間に答えることはできません。 だから、文学のほうも変わる必要がある。今の傾向を方向転換して、社会が必要とする、あるいは個人が生きていくうえで必要な考え方を助けるような話題、問題に踏み込んでいかないとけない。 しかしそういう傾向というのは、それなりの理由があってそうなるわけで、そう簡単に方向が変わるとは思わない。	①削除	①学習上の配慮
247～268	魂込め	国語教材	①(17ページ1行目～30ページ1行目)さすがに疲れて砂に尻をおろし、木漏れ陽が踊って時折姿が薄くなる幸太郎の横顔を見つめていると、ねえさん、と後ろから声をかけられた。～心配してついてきてくれたツルと自分の家の前で別れ、ウタはそのまま浜におりた。	①削除	①分量の調整
326～335	女の子たち風船爆弾をつくる	国語教材	①(210ページ8行目～213ページ11行目)昼休みになると雙葉の少女が四階で、コーラスをやっていた。～「宝塚で大きいコンニャクの配給があった(食用)。」	①削除	①分量の調整
343～349	日本文化私観	国語教材	①(375ページ3行目～7行目)もつとも、町にも酒屋はある。しかし、オテン屋というようなものはなく、普通の酒屋で、櫃へ腰かけてコップ酒をのむのである。これを「トンパチ」と言い、「当八」の意だそうである。即ち一升がコップ八杯にしか当たらぬ。つまり、一合以上なみなみとあり、盛りがいいという意味なのである。村の百姓達は「トンパチやんべいか。」と言う。もちろん僕は愛用したが、一杯十五銭だったり、十七銭だったり、日によってその時の仕入れ値段で区々だったが、東京から来る友達は顔をしかめて飲んでいる。 ②(375ページ20行目～376ページ4行目)その頃はまだ学生で、僕は酒も飲まない時だが、友人達と始めて同人雑誌をだし、酒を飲まないから、勢い、そぞろ歩きをしながら五時間六時間と議論をつづけることになる。そのため、足の向くままに、実に諸方の道を歩いた。深夜になり、深夜でなくともしきりと警官に訊問されたが、左翼運動の旺んな時代で、徹底的に小うるさく訊問された。大体、深夜に数人で歩きながら、酒も飲んでいないというのが、かえって怪しまれる種であった。そういう次第で心を改め大酒飲みになった訳でもないのだが。 ③378ページ8行目～16行目)日本へも来たことのあるパドックだのシンプソンの頃までは、そうだった。メカルフだのトーランが現れた頃から、短距離には重い身体の加速度が最後の条件であると訂正され、スマートな身体は中距離の方へ廻されるようになったのである。いつか、羽田飛行場へかけて、分捕品のイー十六型戦闘機を見たが、飛行場の左端に姿を現したかと思ううちに右端へ飛び去り、呆れ果てた速力であった。日本の戦闘機は格闘性に重点を置き、速力を二の次にするから、速さの点では比較にならない。イー十六は胴体が短く、ずんぐり太っていて、ドッシリした重量感があり、近代式の百米選手の体格の条件に全く良く当てはまっているのである。スマートな所は微塵もなく、あくまで不恰好に出来上がっているが、その重量の加速度によって風を切る速力的な美しさは、スマートな旅客機などの比較にならぬものがあった。	①～③削除	①～③学習上の配慮

加 除 訂 正 表

申請図書			原文(ページ数・行数は原文のもの)	加除訂正文(ページ数・行数は申請図書のもの)	理由
ページ	名称	種別			
374～386	王国	国語教材	①(48ページ9行目)フィレオフィッシュ	①(378ページ上段9行目)フィッシュバーガー	①特定の商標名を出さない配慮
			②(49ページ14行目)コンテ	②削除	②特定の商標名を出さない配慮
452～457	寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか	国語教材	<p>①(164ページ3行目～13行目) 寛容と不寛容の問題は、理性とか知性とか人間性とかいうものを、お互いに想定できる人間同士の間のことであって、猛獣対人間の場合や、有毒菌対人間の場合や、天災対人間の場合は、論外とすべきであろう。人間のなかには、猛獣的な人間もいるし、有毒菌的天災的な人物な人物もいるにしても、普通人である限りに'おいては、当然問題の内にはいってくる。ただ、このような人間は、その発作が病理学的な場合もあり無智の結果である場合もあるから、問題の範囲内に入れるとしても、これも別に論じなければならぬことになろう。ここでは、概念的すぎるかもしれないが、普通の人間における不寛容と寛容との問題だけに焦点の位置を限らねばならない。</p> <p>狂人も確かに人間ではあるが、狂人が暴れ騒ぐ時には、普通人は非常に困却するが故に、若干の力を用いたり、薬物の力を藉りたりして、その暴行を抑制することがある。もちろん、狂人に対して非人間的な取扱いは決してしないというむづかしい条件の下に、こうした措置は、万人に認容されるであろう。もっとも、普通人と狂人と差は、甚だ微妙であるが、普通人というのは、自らがいつ何時狂人になるかも判らないと反省できる人々のことにする。寛容と不寛容との問題も、こうした意味における普通人間の場に置いて、先ず考えられねばならない。</p>	①削除	①学習上の配慮

『文学国語』ウェブページのアドレス等の掲載箇所一覧表

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	8	二次元コード	自社ページ	自社ページURL	QRコードフロントページ。ウェブコンテンツ一覧。	別紙1
		二次元コード	自社ページ	https://www.bungakukan.or.jp/	「情報の彫刻」(20ページ)の参考資料として、所蔵する夏目漱石『吾輩は猫である』の表紙(1906年、橋口五葉装丁)を閲覧できる。	
		二次元コード	自社ページ	http://www.saitoharumichi.com/	「異なり記念日」(26ページ)の参考資料として、筆者である齋藤陽道氏のウェブサイトを紹介。	
		二次元コード	自社ページ	自社ページURL	「山月記」(34ページ)の参考資料として「人虎伝」のテキストを掲載。	別紙2
		二次元コード	自社ページ	自社ページURL	「実践①…構成と展開を工夫して、変身物語を書こう」の参考資料として、変身物語の名作をPDFで紹介。	別紙3
		二次元コード	自社ページ	https://creativepark.canon/meiga/artmap/edo100.html	「実体の美と状況の美」(66ページ)の参考資料として歌川広重の浮世絵「名所江戸百景」全119作品の描かれた地点を示した地図アプリを紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://aozora.binb.jp/reader/main.html?cid=773	「こころ」(112ページ)の参考資料として、青空文庫のウェブサイトより「こころ」全文を紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://www.mext.go.jp/bmenu/hakusho/html/others/detail/1318188.htm	「こころ」(112ページ)の参考資料として、文部科学省ウェブサイトより学校系統図を紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://aozora.binb.jp/reader/main.html?cid=772	「私の個人主義」(140ページ)の参考資料として、青空文庫のウェブサイトより「私の個人主義」全文を紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://www.nhk.or.jp/meicho/famousbook/36_annonenonikki/index.html	「死者の声を運ぶ小舟」(148ページ)の参考資料として、NHKウェブページ「100分 de 名著」より『アンネの日記』を紹介。	
二次元コード	自社ページ	https://www.nhk.or.jp/meicho/famousbook/14_franks/index.html	「死者の声を運ぶ小舟」(148ページ)の参考資料として、NHKウェブページ「100分 de 名著」より『夜と霧』を紹介。			

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	8	二次元コード	自社ページ	https://publications.asahi.com/ecs/detail/?item_id=19423	「死者の声を運ぶ小舟」(148ページ)の参考資料として、朝日新聞出版ウェブページより『これが人間か』を紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://www.kodansha.co.jp/book/products/0000131323	「死者の声を運ぶ小舟」(148ページ)の参考資料として、講談社ウェブページより『ふたりのイーダ』を紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://www.shinchosha.co.jp/book/103406/	「死者の声を運ぶ小舟」(148ページ)の参考資料として、新潮社ウェブページより『黒い雨』を紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://www.iwanami.co.jp/book/b267379.html	「死者の声を運ぶ小舟」(148ページ)の参考資料として、岩波書店ウェブページより『ヒロシマ・ノート』を紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://aozora.binb.jp/reader/main.html?cid=4680	「死者の声を運ぶ小舟」(148ページ)の参考資料として、青空文庫のウェブサイトより「夏の花」全文を紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://www.kanazawa-museum.jp/saisei/saisei/index.html	「小景異情」(202ページ)の参考資料として、室生犀星記念館のウェブサイトを紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://www.chuyakan.jp/about-chuya/	「サーカス」(203ページ)の参考資料として、中原中也記念館のウェブサイトを紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://www.city.hanamaki.iwate.jp/miyazawakenji/about_kenji/index.html	「永訣の朝」(205ページ)の参考資料として、花巻市のウェブサイトより「宮澤賢治について」を紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://www.mokichi.or.jp/about-mokichi/	「死にたまふ母」(213ページ)の参考資料として、斎藤茂吉記念館のウェブサイトを紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://www.kochi-bungaku.com/teradatorahiko/	「化物の進化」(222ページ)の参考資料として、高知県立文学館のウェブサイトより、寺田寅彦の特設ページを紹介。	
二次元コード	自社ページ	https://www.city.okinawa.okinawa.jp/heiwanohi/2524	「魂込め」(247ページ)の参考資料として、沖縄市平和学習コンテンツサイト「沖縄市民平和の日」のウェブサイトを紹介。			
二次元コード	自社ページ	https://www.msz.co.jp/topics/08670/	「言葉のあいだの言葉」(274ページ)の参考資料として、みすず書房ウェブサイトより、カロリン・エムケ『憎しみに抗って——不純なものへの賛歌』を紹介。			

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	8	二次元コード	自社ページ	https://aozora.binb.jp/reader/main.html?cid=52454	「小説とは何か」(280ページ)の参考資料として、青空文庫のウェブサイトより「遠野物語」全文を紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://aozora.binb.jp/reader/main.html?cid=56642	「陰翳礼讃」(288ページ)の参考資料として、青空文庫のウェブサイトより「陰翳礼讃」全文を紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://morrogai-kinenkan.jp/modules/contents/index.php?content_id=11	「舞姫」(296ページ)の参考資料として、文京区立森鷗外記念館ウェブサイトより「森鷗外について」ページを紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://www.meiji.ac.jp/noborito/event/testimonials2017_index.html	「女の子たち風船爆弾をつくる」(326ページ)の参考資料として、明治大学平和教育登戸研究所資料館ウェブサイトより、元風船爆弾製造動員女子生徒の証言を紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://www.shiorihorie.com/thescabcomesoff	「確かにそういう時間があったということ」(338ページ)の参考資料として、筆者の堀江栞氏のウェブサイトより、作品「かさぶた」に関する展覧会やインタビューなどを紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://aozora.binb.jp/reader/main.html?cid=501	「水仙」(358ページ)の参考資料として、青空文庫のウェブサイトより「忠直卿行状記」(菊池寛)全文を紹介。	
		二次元コード	自社ページ	http://munal.emuseum.com/people/324/jose-guadalupe-posada	「骨とまぼろし」(394ページ)の参考資料として、メキシコ国立美術館ウェブサイトより、ホセ・グアダルーペ・ポサダの作品を紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://m-hikiage-museum.jp/education/siberia.html	「ある〈共生〉の経験から」(401ページ)の参考資料として、舞鶴引揚記念館ウェブサイトより、シベリア抑留について紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://jphaiku.jp/how/index.html	「俳句」(420ページ)の参考資料として、日本俳句研究会のウェブサイトより、「俳句の作り方」のページを紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://aozora.binb.jp/reader/main.html?cid=2277	「藤野先生」(430ページ)の参考資料として、青空文庫ウェブサイトより、「惜別」(太宰治)全文を紹介。	
		二次元コード	自社ページ	https://www.archives.tohoku.ac.jp/luxun/	「藤野先生」(430ページ)の参考資料として、東北大学史料館のウェブサイトより、「魯迅と東北大学」のページを紹介。	
二次元コード	自社ページ	自社ページURL		「寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」(452ページ)の参考資料として、456ページの図版『サン・バルテルミーの虐殺』(一部)の全景を掲載。	別紙4	

申請図書			学習上の参考にする情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	8	二次元コード	自社ページ	https://www.bungakukan.or.jp/	「実践④…創作の背景について調べよう」(471ページ)の参考資料として、日本近代文学館のウェブサイトを紹介。	

(備考)

申請図書中に発行者が管理するウェブページのアドレス(二次元コードその他のこれに代わるものを含む。)を掲載する場合に、本表を以下のとおり作成する。

1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。

① 「番号」の欄は、複数のページ等に掲載されたウェブページのアドレス等が同一のウェブページを参照させる場合、一つの番号にまとめて記入する。

② 「ページ」の欄は、ウェブページのアドレス等の申請図書における掲載ページを示す。

③ 「種別」の欄は、URL、二次元コード等の別を示す。

2 「学習上の参考にする情報」の欄については次のとおりとする。

① 「参照先」の欄には、発行者のページから参照させる学習上の参考にするページを作成する団体名などを記入する。

② 「URL」の欄には、実際に参照させる学習上の参考にするページのURLを記載する。なお、参照先が発行者の作成したページである場合は、「自社ページURL」と記入する。

③ 「概要」欄には、参照先における情報の内容を簡潔に記入する。

3 申請図書中のウェブページのアドレス等が参照させるウェブページの画面を印刷した紙面には、対応する本表の番号を紙面右上に付記し、本表に添付すること。

4 学習上の参考にする情報を示すウェブページが発行者において作成したページの場合、参照先のウェブページの画面を印刷した紙面を、本表に添付すること。

その際、「備考」の欄に「別紙1添付」などと記載し、印刷した紙面右上に「別紙1」などと記入すること。

* 各コンテンツ名をクリックしてください。参考資料のウェブページに移動します。

目次	ページ	コンテンツ名	概要
第一部			
第1章 ことばから広がる世界 随想・評論（一）			
情報の彫刻	20	日本近代文学館(公益財団法人日本近代文学館ウェブサイトより)	所蔵する夏目漱石『吾輩は猫である』の表紙(1906年、橋口五葉装丁)を閲覧できます。
異なり記念日	26	saito harumichi(齋藤陽道ウェブサイトより)	筆者が自身の活動や撮影した写真を紹介しています。
第2章 物語との出会い 小説・随想（一）			
山月記	34	「人虎伝」テキスト(pdf)	「山月記」の参考資料として「人虎伝」の書き下し文を掲載しています。
実践① 構成と展開を工夫して、変身物語を書こう	59	「変身物語」の名作(pdf)	「変身物語」の創作をするにあたって参考になる作品を紹介しています。
第3章 世界観の変革 随想・評論（二）			
実体の美と状況の美	66	「名所江戸百景」地図アプリ(Canon Creative Parkウェブサイトより)	日本地図上に、歌川広重の浮世絵「名所江戸百景」全119作品の描かれた地点を示しています。
第5章 自己と向き合う 小説・随想（二）			
こころ	112	「こころ」全文(青空文庫ウェブサイトより)	夏目漱石「こころ」の全文を掲載しています。
		学校系統図(文部科学省ウェブサイトより)	明治から昭和にかけての学校系統図の変遷が見られます。

参考 私の個人主義	140	「私の個人主義」全文(青空文庫ウェブサイトより)	夏目漱石「私の個人主義」の全文を掲載しています。
第6章 過去との対話 随想・評論 (四)			
死者の声を運ぶ小舟	148	「100分 de 名著『アンネの日記』」(NHKウェブサイトより)	本文で触れられている『アンネの日記』の詳細を紹介しています。
		「100分 de 名著『夜と霧』」(NHKウェブサイトより)	本文で触れられている『夜と霧』の詳細を紹介しています。
		『これが人間か』(プリーモ・レーヴィ)(朝日新聞出版 ウェブサイトより)	本文で触れられている『これが人間か』の書籍紹介ページです。
		『ふたりのイーダ』(松谷みよ子)(講談社ウェブサイトより)	本文で触れられている『ふたりのイーダ』の書籍紹介ページです。
		『黒い雨』(井伏鱒二)(新潮社ウェブサイトより)	本文で触れられている『黒い雨』の書籍紹介ページです。
		『ヒロシマ・ノート』(大江健三郎)(岩波書店ウェブサイトより)	本文で触れられている『ヒロシマ・ノート』の書籍紹介ページです。
		「夏の花」全文(青空文庫ウェブサイトより)	本文で触れられている原民喜「夏の花」全文を掲載しています。
第8章 調べとリズム 詩歌			
小景異情	202	室生犀星について(室生犀星記念館ウェブサイトより)	室生犀星について詳細を紹介しています。
サーカス	203	中原中也について(中原中也記念館ウェブサイトより)	中原中也について詳細を紹介しています。
永訣の朝	205	宮澤賢治について(花巻市ウェブサイトより)	宮澤賢治について詳細を紹介しています。

死にたまふ母	213	斎藤茂吉について(斎藤茂吉記念館ウェブサイトより)	斎藤茂吉について詳細を紹介しています。
第9章 思考の道筋をたどる 随想・評論 (五)			
化物の進化	222	寺田寅彦について(高知県立文学館ウェブサイトより)	寺田寅彦について詳細を紹介しています。
第10章 日常の裂け目 小説・評論 (四)			
魂込め	247	沖縄戦の歴史(沖縄市平和学習コンテンツサイト「沖縄市民平和の日」より)	沖縄戦について詳細を学べます。
第二部			
第1章 物語が生まれる場所 随想・評論 (一)			
言葉のあいだの言葉	274	難民政策に揺れるドイツでベストセラー(みすず書房ウェブサイトより)	本文で触れられているカロリン・エムケ『憎しみに抗って——不純なものへの賛歌』を紹介しています。
小説とは何か	280	「遠野物語」全文(青空文庫ウェブサイトより)	本文で触れられている柳田國男「遠野物語」全文を掲載しています。
陰翳礼讃	288	「陰翳礼讃」全文(青空文庫ウェブサイトより)	谷崎潤一郎「陰翳礼讃」全文を掲載しています。
第2章 交差するドラマ 小説 (一)			
舞姫	296	森鷗外について(文京区立森鷗外記念館ウェブサイトより)	森鷗外について詳細を紹介しています。
女の子たち風船爆弾をつくる	326	2017年度元風船爆弾製造動員女子生徒による証言会(明治大学平和教育登戸研究所資料館ウェブサイトより)	女子学生時代に風船爆弾製造に動員された方々の証言を紹介しています。

第3章 新たな視座を得る 随想・評論（二）			
確かにそういう時間があったということ	338	堀江葉「かさぶたは、時おり剥がれる」(SHIORI HORIEウェブサイトより)	本文で触れられている筆者の作品「かさぶた」に関して、展覧会やインタビューなどを紹介しています。
第4章 文体がひらく世界 小説（二）			
水仙	358	「忠直卿行状記」全文(青空文庫ウェブサイトより)	本文で触れられている菊池寛「忠直卿行状記」全文を掲載しています。
第5章 表現を突き詰める 随想・評論（三）			
骨とまぼろし	394	ホセ・グアダルルーペ・ポサダの作品(メキシコ国立美術館ウェブサイトより)	本文で触れられているホセ・グアダルルーペ・ポサダの作品が見られます。
ある〈共生〉の経験から	401	シベリア抑留について(舞鶴引揚記念館ウェブサイトより)	シベリア抑留について詳細が学べます。
第6章 詩歌という隣人 詩歌・随想			
俳句	420	俳句の作り方(日本俳句研究会ウェブサイトより)	俳句の作り方について詳細が学べます。
鈴虫の間、ぼくの六畳間	424	リーンリーン スズムシが鳴く(NHKアーカイブスウェブサイトより)	スズムシの鳴き声を聞くことができます。

第7章 歴史の記憶 小説（三）

藤野先生	430	「惜別」全文(青空文庫ウェブサイトより)	魯迅と藤野先生との関係を描いた太宰治「惜別」全文を掲載しています。
		魯迅と東北大学(東北大学史料館ウェブサイトより)	魯迅の仙台留学時代について詳細を紹介しています。
砲撃のあとで	439	満蒙開拓のミニ知識(満蒙開拓平和記念館ウェブサイトより)	満州や満蒙開拓について詳細を学べます。

第8章 未来を問う 随想・評論（四）

寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか	452	「サン・バルテルミーの虐殺」(pdf)	456ページの図版「『サン・バルテルミーの虐殺』（一部）」の全景を掲載しています。
実践④ 創作の背景について調べよう	471	日本近代文学館ウェブサイト	文学作品について調べるときに役立つ文学館です。資料や文献などが検索できます。

参考資料

1 人虎伝

李景亮 撰

「国訳漢文大成 文学部第十二卷 晋唐小説」所収
 * 会話文には「」を付した。

隴西（りゆうせい）の李徴（り）は、皇族の子にして號略（ごうりやく）に家す。徴少くして博学、善く文を属す。弱冠、州府貢に従ふ。時に名士と号す。天寶十五載春、尚書右丞楊元の榜下（ぼうか）に於て進士に登第す。後數年、調せられて江南尉に補す。徴性疎逸、才を恃んで倨傲（きよごう）なり。跡を卑僚（ひりょう）に屈する能はず。常に鬱鬱（うくうく）として樂しません。同舎の会既に酣（たむけ）なる毎に顧みて其の群官に謂つて曰はく、「生は乃ち君等と伍を為さんや。」と。其の僚友咸（みな）之に側目す。謝秩（しやくち）に及び則ち退き歸りて間適し、人と通ぜざること歳余に近し。後衣食に迫られ乃ち東吳楚の間に遊び、以て郡国の長吏に干む。楚人其の声を聞くこと固より久し。至るに及び皆館を開いて以て俟つ。

宴遊（えんゆう）を極めて將に去らんとすれば、悉く厚く遺りて以て其の囊橐（なうたう）を實す。徴吳楚に在り且に歳余ならんとす。獲る所の饋遺（きゆうい）甚だ多し。西號略に歸り未だ舎に至らず、汝墳（じよふん）の逆旅（やくりよ）の中に於て忽ち疾を被りて発狂し、僕者を鞭撻（むちうた）つ。其の苦しみに勝す。是に於て旬余疾、益甚し。何もなく夜狂走し其の適く所を知らず。家僮其の去を跡ねて之を伺ふ。月を尽くして徴竟に回らず。是に於て僕者其の乘馬を驅り其の囊橐を挈（たづ）へて遠く遁去る。

明年に至りて陳郡の袁修、監察御史を以て、詔を奉じて嶺南に使ひし、伝に乗りて商於の界に至り、晨に將に去らんとす。其駅吏白して曰はく、「道に虎あり、暴にして人を食ふ。故に此に途する者は、昼にあらざれば敢て進むなし。今尚早し。願はくは、且らく車を駐め、決して前むべからず。」と。修怒りて曰はく、「我は天子の使ひにして後、騎極めて多し。山沢の獸能く害を為さんや。」と。遂に駕を命じて行く。去りて未だ一里を尽くさざるに果たして虎あり、草中より突りて出づ。修驚くこと甚し。俄に虎身を草中に匿し、人声にて言つて曰はく、「異なるかな、幾んど我が故人を傷けんとせり。」と。修其の音を聆（き）くに李徴なるものに似たり。修昔徴と同じく進士の第に登り、分極めて深し。別れて年あり、忽ち其の語を聞き既に驚き且つ異んで測るなし。遂に問ひて曰はく、「子（こ）を誰とかなす。豈故人隴西子にあらずや。」と。虎呼吟（こげん）すること數声、嗟泣する状の若し。已にして修に謂つて曰はく、「我は李徴なり。」と。修乃ち馬より下りて曰はく、「君何に由りて此に至れる。且つ修始め君と場屋を同じうすること十餘年、情好飲すること甚しく、他方に愈れり。意はざりき吾れ先づ仕路に登らんとは、君亦繼いで科選に捷つ。睽間言笑、時を歴ること頗る久し。傾風結想、渴して飲を待つが如し。幸ひに出でて使ひするに

因り此に君に遇ふを得たり。而るに乃ち自ら草中に匿るるは、豈故人
 疇昔の意ならんや。」と。虎曰はく、「吾れ已に異類となる。使吾君が
 形を見れば、則ち且に畏怖して之を惡まん。何ぞ疇昔をこれ念ふに假
 あらんや。然りと雖も君遽に去るなく、少しく款曲を尽くすを得ば、
 乃ち我の幸ひなり。」と。修曰はく、「我素と兄を以て故人と別ふ。願
 はくは拜礼を展べん。」と。乃ち再拜す。虎曰はく、「我足下に事ふて
 より音容曠阻すること且つ久し。僕夫恙なきを得たるか、官途淹留を
 致さざるか。今又何に合適く。向者君二吏あり。驅りて前み、駅隸印
 囊を挈へて以て導くを見たり。庸ぞ御史となりて出で使ひするにあら
 ざらんや。」と。修曰はく、「近者幸ひに御史の列に備はるを得、今使
 ひを嶺南に奉ず。」と。虎曰はく、「吾子文学を以て身を立て、位朝序
 に登る、盛んなりと謂ふべし。況んや憲台は清峻百揆を分糾す。聖明
 慎んで扱ひ、尤も人に異なり。心に故人の此の地に居るを喜ぶ。甚だ
 賀すべし。」と。修曰はく、「往昔吾れ執事と同年に名を成し、交契深
 密なること常友に異なれり。声容間阻りてより去日流るるが如し。風
 儀を想望して心目俱に断ゆ。意はざりき今日君が旧を念ふの言を獲ん
 とは。然りと雖も執事何為れぞ我を見ずして自ら草木の中に匿るる。
 故人の分、豈是の如くなるべけんや。」と。虎曰はく、「我れ今人たら
 ず、安んぞ君を見るを得んや。」と。修曰はく、「願はくは其の事を
 詳にせん。」と。

虎曰はく、「我が前身呉楚に客たり。去歳方に還る。道汝墳に次り
 忽ち疾に墮りて発狂し、夜戸外に吾が名を呼ぶ者あるを聞く。遂に声
 に応じて出で、山谷の間を走り、覺えず左右の手を以て地を攫みて歩
 す。是れより心愈狼、力愈倍せるを覺ゆ。其の臆體を視るに及びて
 は則ち毛の生ぜるあり。心甚だ之を異とす。已にして溪に臨みて影を

照らせば已に虎と成れり。悲慟すること良久し。然れども尚ほ生物を
 攫みて食らふに忍びず。既に久しく飢ゑて忍ぶべからず。遂に山中の
 鹿豕羶塊を取りて食に充つ。又久しくして諸獸皆遠く避けて得る所な
 し。飢益々甚し。一日婦人あり山下より過ぐ。時正に飯迫る。徘徊す
 ること数四、自ら禁ずる能はず遂に取りて食らふ。殊に甘美なるを覺
 ゆ。今其の首飾猶ほ巖石の下に在り。是れより冕して乗る者、徒して
 行く者、負ひて趨る者、翼ありて翔ける者、露ありて馳する者を見れ
 ば、力の及ぶ所悉く擣へて之を阻し、立ちどころに尽くす。率ね以て
 常となす。妻孥を念ひ朋友を思はざるにあらざれども、ただ行ひの神
 祇に負けるを以て、一旦化して異獸となり、人に嗣づるあり。故に分
 として見えず。嗟乎我と君とは同年に登第し、交契素より厚し。君は
 今日天憲を執り親友に耀かす。而も我は身を林藪に匿し永く人實を謝
 る。躍りて天を呼び俛して地に泣くも、身毀れて用ひられず。是れ果
 たして命なるか。」と。因つて呼吟咨嗟し殆ど自ら勝へず。遂に泣く。
 修且つ問ひて曰はく、「君今既に異類となる、何ぞ尚ほ能く人言する
 や。」と。虎曰はく、「我今形變じて心悟むるのみ。此の地に居りて
 より歲月の多少を知らず、ただ草木の榮枯を見るのみ。近日絶えて過
 客なく、久しく飢ゑて堪へ難し。不幸にして故人に唐突し、慙惶する
 こと殊に甚し。」と。修曰はく、「君久しく飢うれば某に余馬一疋あり、
 留めて以て贈となさば如何。」と。虎曰はく、「吾が故人の俊乗を食
 らふは、何ぞ吾が故人を傷つくるに異ならんや。願はくは此れを反さ
 ん。」と。修曰はく、「食籃中に羊肉数斤あり、留めて以て贈となさ
 ば可ならんか。」と。曰はく、「吾れ方に故人と旧を道ふ。未だ食らふ
 に暇あらず。君去るとき則ち之を留めよ。」と。又曰はく、「我君と
 真に忘形の友なり、而して我將に託する所あらんとす、可ならん

か。」と。僂曰はく、「平昔の故人なり、安んぞ不可なるあらんや。恨むらくは未だ何如事なるかを知らず、願はくは尽く之を教へよ。」と。虎曰はく、「君我に許さずんば我何ぞ敢て言はん、君既に我に許せり、豈隠すあらんや、初め我逆旅の中に於て疾の為に発狂し、既に荒山に入る。而して僕若我が乗馬衣囊を駆り悉く逃げ去る。吾が妻孥尚ほ號略に在り。豈我が化して異類となれるを知らんや。君南より回らば為に書を齎して吾が妻子を訪ひ、ただ云へ、我已に死せりと。今日の事を言ふなかれ。之を志せ。」と。乃ち曰はく、「吾れ人世に於て且つ資業なし。子あるも尚ほ稚し。固より自ら謀り難し。君の位周行に列り、素より風義を秉る。昔日の分、豈他人能く右らんや。必ず望む。其の孤弱を念ひ、時に之を賑卹し、道途に殍死にせしむるなくんば、亦恩の大なるものなり。」と。言ひ已りて又悲泣す。僂も亦泣きて曰はく、「僂と足下と休戚同じ。然らば則ち足下の子は亦僂の子なり。当に力めて厚命に副ふべし。又何ぞ其の至らざるを虞れんや。」と。

虎曰はく、「我旧文数十篇あり。未だ代に行はれず。遺藁ありと雖も当に尽く散落すべし。君我が為に伝録せば、誠に文人の口闕に列する能はざるも、然も亦子孫に伝ふるを貴ぶなり。」と。僂即ち僕を呼び筆を命じ、其の口に随つて書せしむ。二十章に近し。文甚だ高く、理甚だ遠し。閱して歎ずること再三に至る。虎曰はく、「此れ吾が平生の業なり。又安んぞ寝めて伝へざるを得んや。」と。既にして又曰はく、「吾れ詩一篇を為らんと欲す。蓋し吾が外異なりと雖も、中異なる所なきを表せんと欲す。亦以て吾が懷を追ひて吾が憤りを癒べんと欲するなり。」と。僂復た吏に命じ筆を以て之に授けしむ。詩に曰はく、

偶狂疾に因つて殊類と成る。災患相仍つて逃るべからず。今日
は爪牙誰か敢へて敵せんや。当時は声跡共に相高かりき。我は異
物と為りて蓬茅の下にあれども、君は已に輜に乗りて氣勢豪なり。
此の夕べ溪山明月に対し、長嘯を成さずして但だ嘯を成すのみ。
と。僂之を覽て驚きて曰はく、「君の才行我之を知れり。而も君の此
に至れるは、君平生恨むあるなきを得んや。」と。虎曰はく、「二儀の
物を造る、固より親疎厚薄の間なき。其の遇ふ所の時、遭ふ所の数の
若きは、吾れ又知らざるなり。噫顔子の不幸再有の斯の疾、尼父嘗て
深く之を歎せり。若し其の自ら恨む所を反求せば、即ち吾れ亦之あり。
定めて此に因るを知らざらんや。吾れ故人に遇ふ。則ち自ら匿す所な
し。吾れ嘗て之を記す。南陽の郊外に於て嘗て一孀婦に私す。其の家
竊に之を知り、常に我を害せんとの心あり。孀婦是れより再び合ふを
得ず。吾れ因つて風に乗じて火を縦ち、一家数人尽く之を焚殺して去
る。此を恨みとなすのみ。」と。虎又曰はく、「使ひして回るの日、幸
ひに道を他郡に取れ、再び此の途に遊ぶなかれ。吾れ今日尚ほ悟むる
も一日に都て酔はば則ち君此を過ぐるも、吾れ已に省せず、將に足下
を齒牙の間に碎かんとす。終に士林の笑ひと成らん。此吾が切祝なり。
君前み去ること百余步、小山に上り下視さば尽く見えん。此に將に君
をして我を見せしめんとす。勇を矜らんと欲するにあらず。君をして
見て復た再び此を過ぎざらしめんとなり。則ち吾が故人を待つ所の薄か
らざるを知らん。」と。復た曰はく、「君都に還り吾が友人妻子を見る
も、慎んで今日の事を言ふなかれ。吾久しく使旆を留め王程を稽滯せ
んことを恐る。願はくは子と訣れん。」と。別れを叙すること甚だ久
し。僂乃ち再拜して馬上に上り草茅の中を回視し、悲泣聞くに忍びざる
所なり。僂亦大いに働き行くこと数里、嶺に登りて之を看れば、則ち

別紙 2

虎林中より躍り出でて咆哮し、巖谷皆震ふ。後南中より回る。乃ち他道を取り復た此に由らず。使ひを遣はし書及び賻贈の礼を持ち徴が子に計せしむ。月余にして徴が子號略より京に入り、慘に詣りて先人の柩を求む。慘已むを得ず具に其の伝を疏し、遂に己が俸を以て均給す。徴が妻子飢凍を免る。後、官兵部侍郎に至る。

「変身物語」の名作

「実践①…構成と展開を工夫して、変身物語を書こう」

参考資料

「変身物語」には、例えば次のような作品があります。創作の参考にしてみましょう。

・『変身』カフカ（1915年）

ある朝目覚めると、巨大な虫に変身していたグレゴール・ザムザの物語。変身してしまったザムザをめぐる、両親や妹の生活や考えも変化していく。

新潮文庫（高橋義孝訳）、角川文庫（中井正文訳）、岩波文庫（山下肇・山下萬理訳）、光文社古典新訳文庫（丘沢静也訳）、白水 u ブックス（池内紀訳）などに収録。



・『秘密』谷崎潤一郎（1911年）

女性の着物を着て、女性の化粧をする喜びを知ってしまった「私」。自分のものではない誰かになる快感や怪しさを濃密な筆致で描く。

新潮文庫、角川文庫などに収録。



・『ジキルとハイド』ロバート・L. スティーヴンソン（1886年）

弁護士のガブリエル・ジョン・アターソンは、あるとき、友人ジキルの周囲に、不気味な人物が見え隠れすることに気づく。あの人物はいったい誰なのか…。

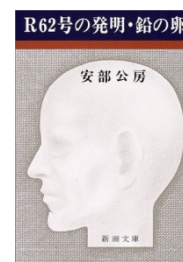
角川文庫（田内志文訳）、新潮文庫（田口俊樹訳）、岩波文庫（海保眞夫訳）、光文社古典新訳文庫（村上博基訳）などに収録。



・『棒』安部公房（1955年）

デパートの屋上から落下して、「棒」になってしまった男。その「棒」をひろった不思議な三人組は一体なにものなのか？

新潮文庫「R62号の発明・鉛の卵」などに収録。戯曲化した「棒になった男」という作品もある。



・「胡蝶之夢」 荘子

うとうととしていると、「蝶」になっていた……。古代中国の思想家、荘子が「蝶」に変身して気づいたこととは。

角川ソフィア文庫、中公クラシックス、講談社学術文庫、岩波文庫、ちくま学芸文庫などに収録。



・『おれがあいつであいつがおれで』 山中恒 (1979年)

階段から転げ落ちた「おれ」こと斉藤一夫と、「あいつ」こと転校生の斎藤一美。きづけば二人の体は入れ替わっていて……。

現在、角川つばさ文庫などに収録。



・『美女と野獣』 ポーモン夫人 (1756年)

バラを摘んだ罪として、娘を野獣に差し出すこととなった商人。さて、この野獣の正体は？

ディズニー映画にもなった寓話。新潮文庫などに収録。

魔法で異類に変身させられた寓話はほかにも、グリム童話「カエルの王さま」、バレエ「白鳥の湖」、アンデルセン「白鳥の王子（野の白鳥）」など数多くある。



・『押絵と旅する男』 江戸川乱歩 (1929年)

ある日、私は、旅をする汽車のなかで、不思議な押絵を抱いて旅する男に出会う。この押絵は男の兄が変身したものだという。

人間が、動物ではなく「物」に変身する物語も、変身物語の一種だ。

光文社文庫、新潮文庫（『江戸川乱歩名作選』）、岩波文庫（『江戸川乱歩短編集』）、ちくま文庫（『江戸川乱歩 ちくま日本文学7』）などに収録。



・『件』 内田百閒 (1922年)

気づけば「件（くだん）」という生き物になっていた。周囲はたくさんの人に取り囲まれていて……。架空の生き物に変身してしまう、夢のような物語。

『小川洋子と読む内田百閒アンソロジー』（ちくま文庫）、『内田百閒（ちくま日本文学1）』（ちくま文庫）、『冥途——内田百閒集成（3）』（ちくま文庫）、『冥途・旅順入城式』（岩波文庫）などに収録。



・『狐になった奥様』 ガーネット (1922年)

愛する妻がある日突然、「狐」になってしまった。夫はいったいどのように妻に接すればいいのだろう。バレエ作品にもなった寓話。岩波文庫などに収録。



・『木になった亜沙』 今村夏子 (2020年)

杉の木に転生した亜沙。「転生」もまた変身物語のひとつ。2010年太宰治賞でデビュー、以後、独特の世界を描き続ける現代作家の作品から。文藝春秋社より。



・『蛇を踏む』 川上弘美 (1996年)

ある日、蛇を踏んでしまう。「踏まれたので仕方ありません」と、蛇は人間に変身、私の家に住み着いてしまう。芥川賞受賞作。文藝春秋社より。

生き物が人間に変身する作品も数多い。人間になった生き物と人間が結婚する物語を「異類婚姻譚」と呼ぶ。

